

秋田県文化財調査報告書第93集

遺跡詳細分布調査報告書

1982・3

秋田県教育委員会

序

遺跡分布調査は埋蔵文化財保護行政の中で最初におこなわなければならない仕事の一つであります。しかもこの調査は遺跡保護の基礎的な仕事であり、埋蔵文化財保護のスタートはここからはじまるというよいでしょう。

この基礎的な仕事を今年度は東北横断自動車道秋田線（横手市・秋田間）について実施し、新らしく44ヶ所の遺跡が発見されたのであります。これらの遺跡は開発予定区域内に所在することから、今後具体的な形で保護策をこうじなければならない遺跡であり、今後この点を考慮して開発側と協議してまいりたいと考えております。

また範囲確認調査を実施した遺跡は、昭和57年度の具体的な開発計画区域内にある遺跡であり、その保護については早急に対策を立てる必要があります。これらについても埋蔵文化財を保護するという立場で対処したいと考えておりますので、今後とも埋蔵文化財の保護について御協力くださいますようお願い申し上げます。

最後に本調査に御協力いただいた関係各位に対して心から感謝の意を表します。

昭和57年3月

秋田県教育委員会

教育長 畠山芳郎

例 言

1. 本報告書は昭和56年度、秋田県教育委員会が国庫補助を得て遺跡分布調査を実施した結果をまとめたものである。
2. 遺跡分布調査は大野憲司，範囲確認調査は富樫泰時，永瀬福男，熊谷太郎，柴田陽一郎，高橋忠彦がおこなった。
3. 遺跡分布調査の東北横断自動車道秋田線（横手市・秋田市間）の調査結果は昭和55年，56年度の調査結果をまとめたものである。
4. 範囲確認調査の報告は各遺跡の担当者が執筆したものである。
5. 上の山Ⅲ遺跡は調査の結果上の山Ⅱと同一遺跡であることが判明したので上の山Ⅱとして報告した。

感 謝

本調査には次の方々からご協力いただきました。記して感謝の意を表したいと思います。

田沢湖町教育委員会，鹿角市教育委員会，能代市教育委員会，井川町教育委員会，山本町教育委員会，秋田市教育委員会，河辺町教育委員会，雄和町教育委員会，協和町教育委員会，西仙北町教育委員会，南外村教育委員会，大曲市教育委員会，大雄村教育委員会，平鹿町教育委員会，横手市教育委員会，秋田県住宅供給公社，建設省東北地方建設局玉川ダム工事々務所，東北農政局能代開拓建設事業所。

目 次

序
例言

I. はじめに	1
II. 分布調査	1
III. 調査の結果	2
1) 分布調査（東北横断自動車道秋田線・東北縦貫自動車道小坂町地区）	2
2) 範囲確認調査	11
(1) 長者館遺跡	11
(2) 寺の上B遺跡	14
(3) 腹鞆の沢遺跡	17
(4) 上の山I遺跡	21
(5) 上の山II遺跡	25
(6) 此掛沢I遺跡	29
(7) 此掛沢II遺跡	35
(8) 逆川遺跡	41
(9) 大野地遺跡	46

I. はじめに

昭和56年度の遺跡分布調査は昭和55年度から継続して実施した東北横断自動車道秋田線（横手市秋田市間）の幅 200 m，長さ56km（秋田市，河辺町，雄和町，協和町，西仙北町，南外村，大曲市，大雄村，平鹿町，横手市）・東北縦貫自動車道小坂町地区の区域，範囲確認調査は玉川ダム建設予定地内 1 遺跡，秋田県住宅供給公社毛馬内団地造成地域内 1 遺跡，国営能代開拓建設事業，県営ほ場整備事業他 8 遺跡の調査を実施した。

調査は県教育庁文化課及び秋田県埋蔵文化財センター職員が実施した。

II. 分布調査

遺跡分布調査・範囲確認調査

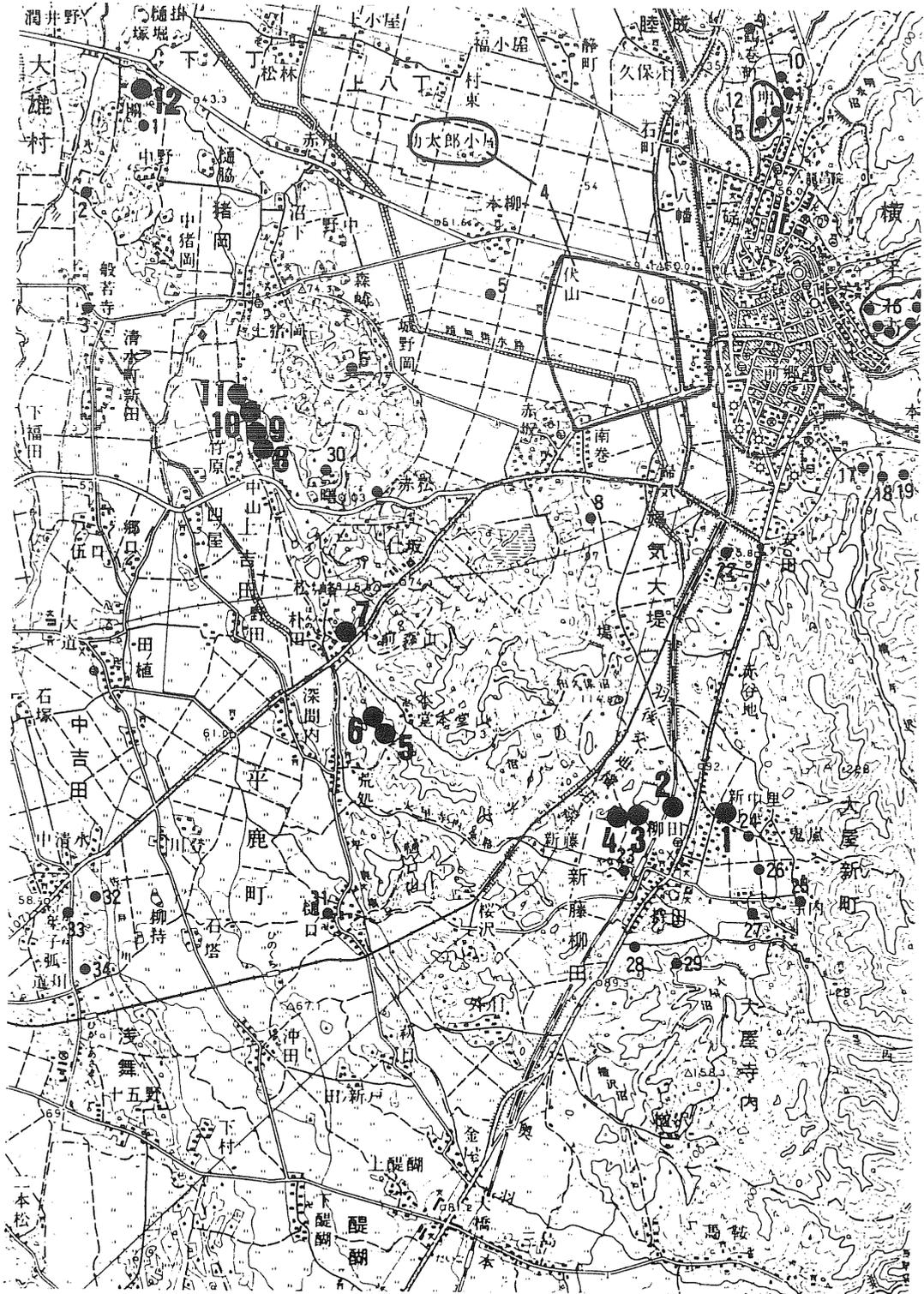
1. 調査の目的

東北横断自動車道秋田線・東北縦貫自動車道小坂町地区の分布調査，玉川ダム建設地（田沢湖町），能代開拓建設事業（能代市・山本町），宅地造成地（鹿角市・井川町）にかかる遺跡 10ヶ所の範囲確認調査を実施し，埋蔵文化財の保護をはかることを目的に実施する。

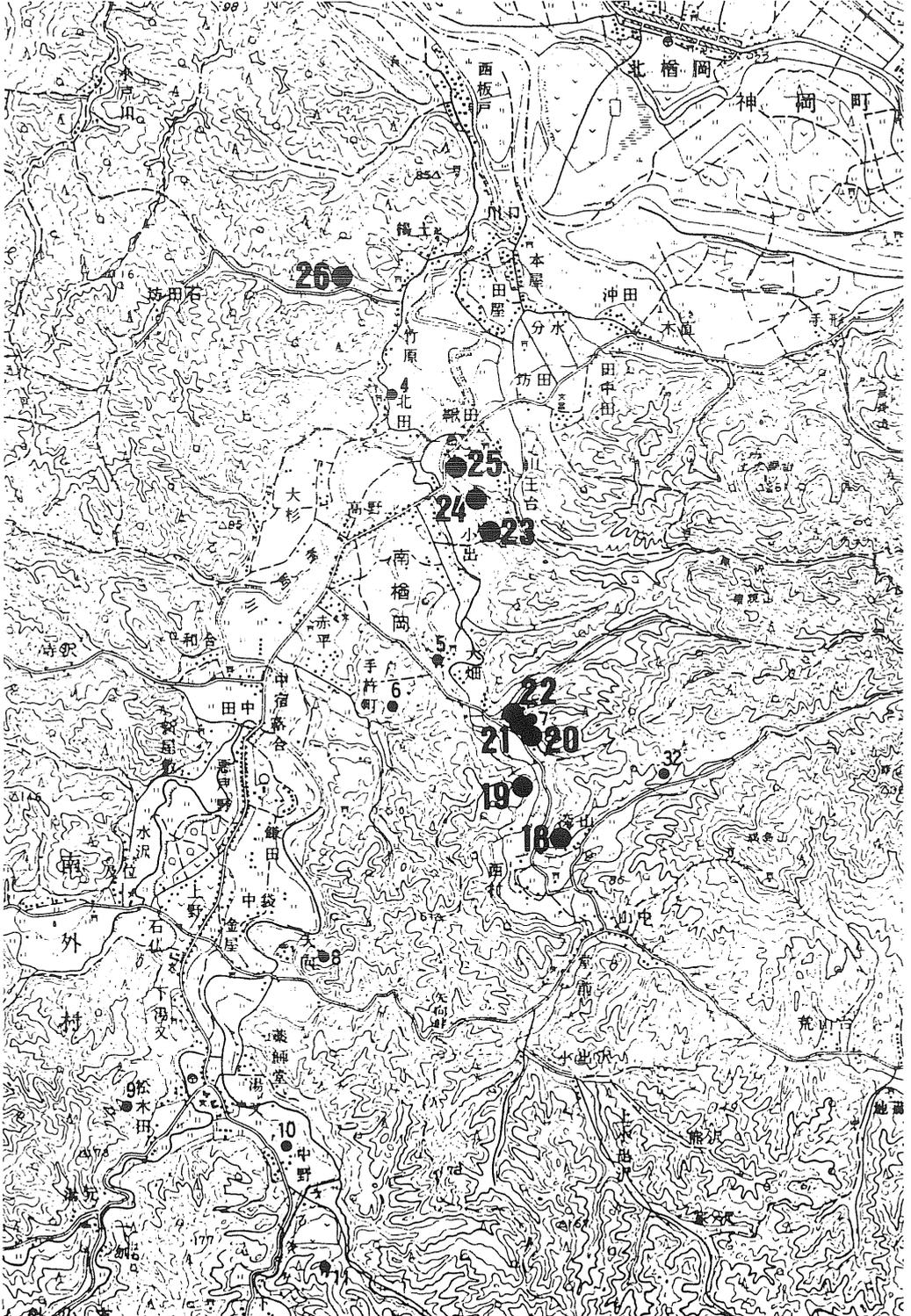
2. 調査の概要

- (1) 調査主体者 秋田県教育委員会
- (2) 調査対象地域他

区 分		調査範囲，遺跡名他	担 当 者
分布調査	東北横断秋田線・縦貫道	幅200 m，延長56km(横手市～秋田間)	大野 憲 司
範囲確認調査	能代開拓建設事業	腹鞍ノ沢遺跡 此掛沢 I 遺跡	富 樫 泰 時
		山の上 I 遺跡 此掛沢 II 遺跡	永 瀬 福 男
		山の上 II 遺跡 逆川遺跡	紫 田 陽一郎
		山の上 III 遺跡	高 橋 忠 彦
	宅地造成	寺の上 B 遺跡（鹿角市）	熊 谷 太 郎
	玉川ダム建設	長者館遺跡（田沢湖町）	高 橋 忠 彦
	その他	大野地貝塚（井川町）	高 橋 忠 彦



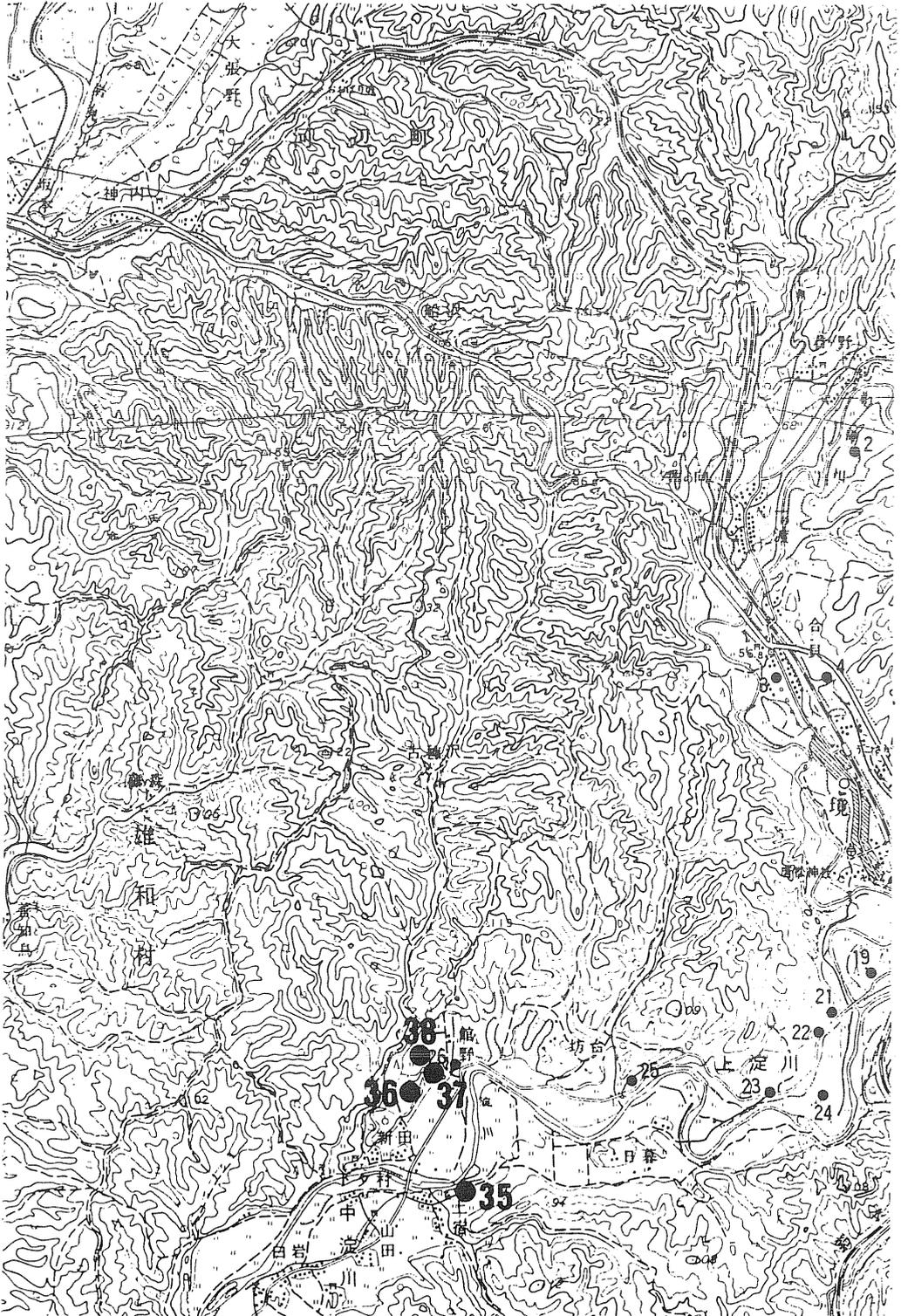
第1図 東北横断自動車道秋田線遺跡位置図



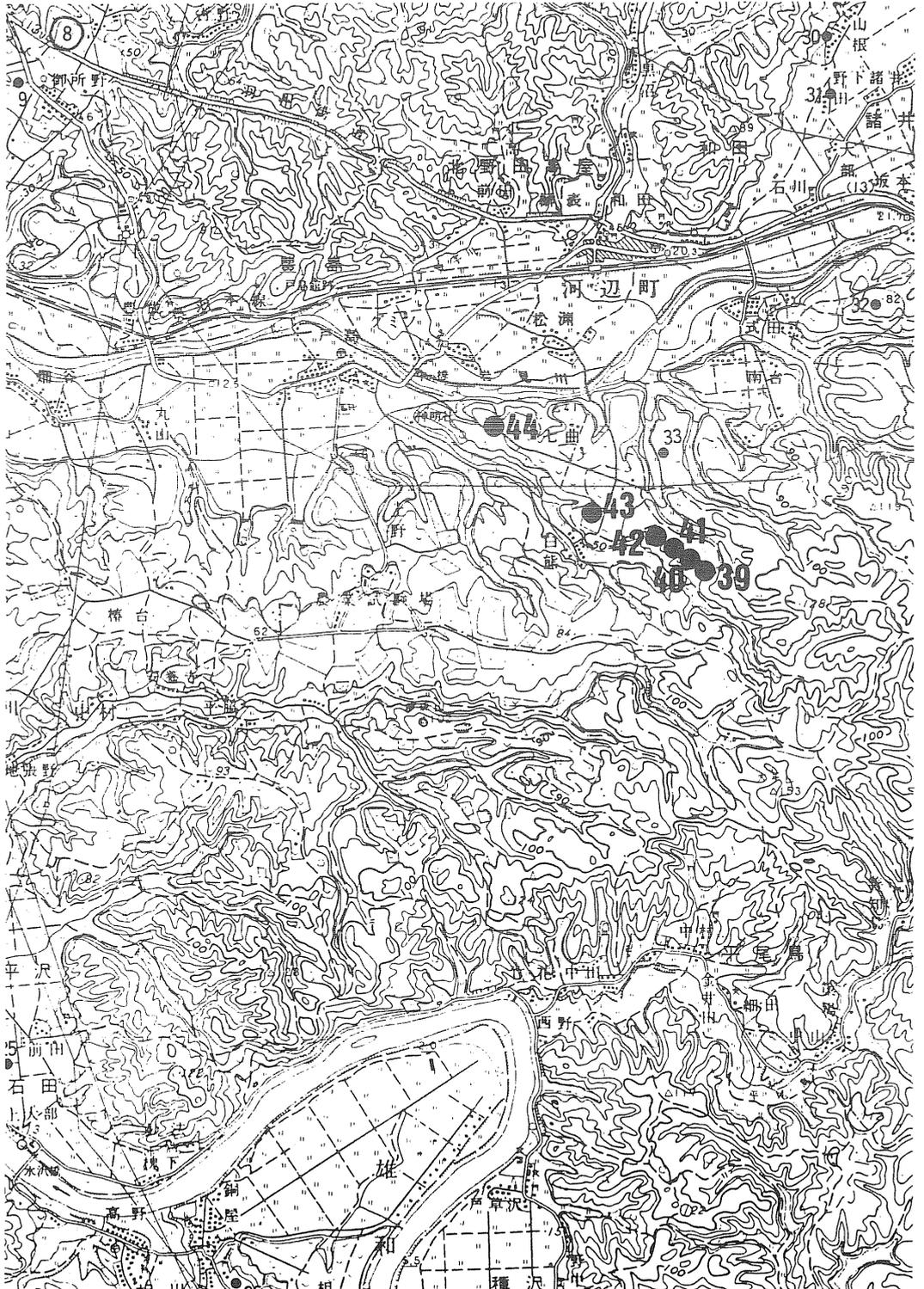
第3図 東北横断自動車道秋田線遺跡位置図



第4図 東北横断自動車道秋田線遺跡位置図



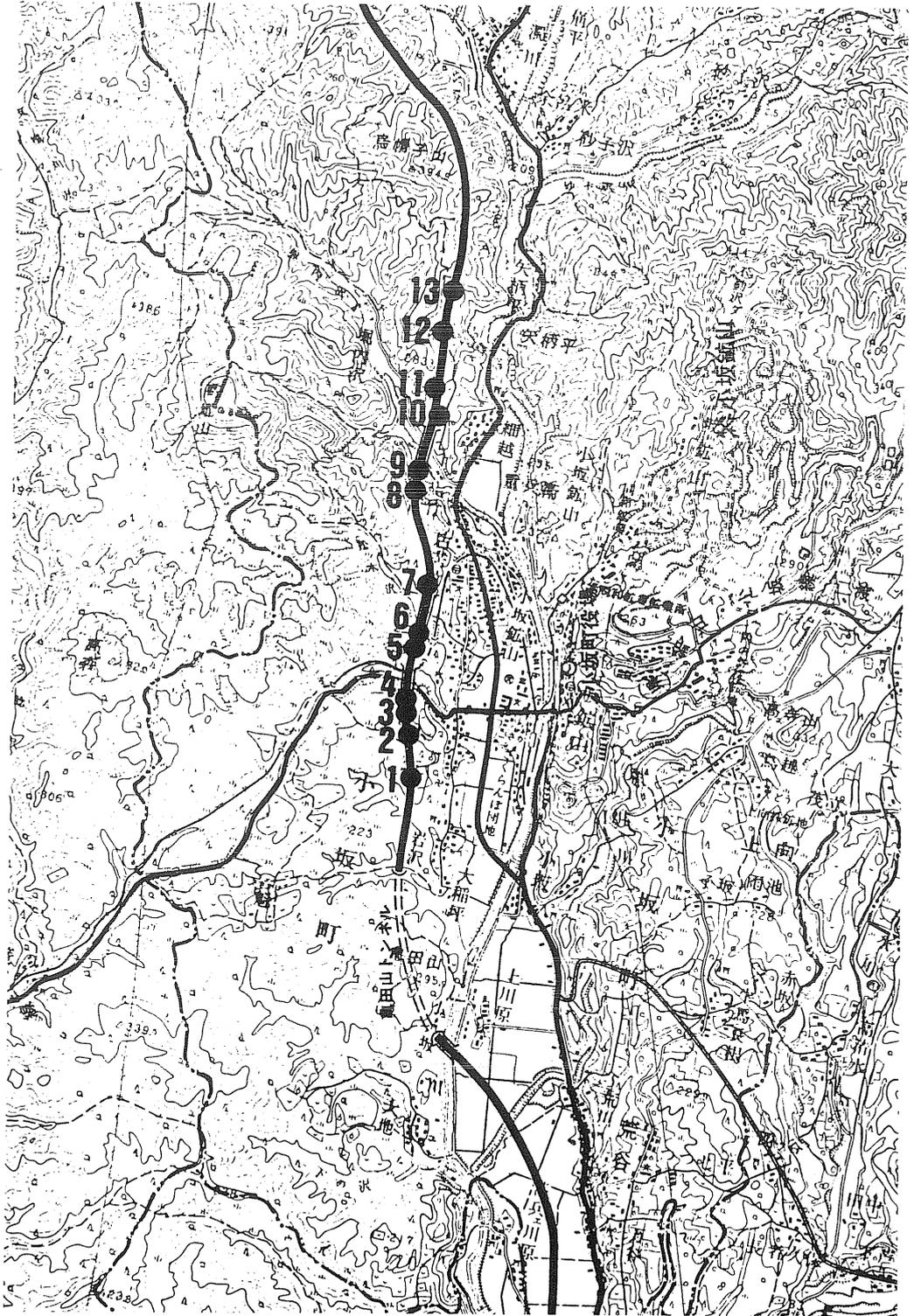
第 5 図 東北横断自動車道秋田線遺跡位置図



第6図 東北横断自動車道秋田線遺跡位置図

東北縦貫自動車道小坂町地区

No.	遺跡名	種別	所在地	公民	出土品	時代	現況	備考
1	はりま館	館跡	小坂字下毛上八山37, 46-1, 45, 38-1, 43, 44-1, 44-2, 42, 59, 60, 61, 58, 64, 66, 68番地			中世	畑地	
2	横館	館跡	小坂字横館22, 26, 25 (27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 73) 番地			中世	山林	
3	館平館	館跡	小坂字館平12-1番地			中世	山林	
4	館平館	館跡	小坂字館平12-1番地			中世	山林	
5	小坂館	館跡	小坂字白長根20, 22, 23番地			中世	山林	
6	小坂館	館跡	小坂字白長根33番地			中世	山林	
7	辺森館	館跡	小坂字辺森5, 22番地			中世	山林	
8	道合 I	遺物包含地	小坂字道合4, 5番地		石匙	縄文	原野	
9	道合 II	遺物包含地	小坂字道合16番地		縄文土器片	縄文	原野	
10	大岱 I	遺物包含地	小坂字大岱1, 2, 3, 4, 5, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 24, 25, 44番地		縄文土器片	縄文	畑地, 山林原野	
11	大岱 II	遺物包含地	小坂字大岱8, 43番地		縄文土器片, 石片	縄文	牧草地	
12	大岱 III	遺物包含地	小坂字大岱		後北C式土器片	続縄文	牧草地	
13	円川原	遺物包含地	小坂字円川原9番地		石片	縄文	牧草地	



第7図 東北縦貫自動車道小坂地区遺跡位置図

2). 範囲確認調査

(1) 長者館遺跡

1. 所在地

仙北郡田沢湖町湯ノ又

2. 面積

31,000m²

3. 調査期間

昭和56年6月29日～7月4日

4. 調査者

高橋忠彦

5. 遺跡の立地の特徴

遺跡は玉川の支流小和瀬川と湯ノ又沢の合流点の東側に付き出た丘陵の末端部にある。標高は400m前後で、現在は山林となっている。

6. 範囲・時代・性格

現地では径4～5mの凹地があり、調査の結果凹地内には焼土、炉に使用されたと考えられる焼石などがあり、凹地が住居跡であることがわかった。この他に焼土遺構も確認している。

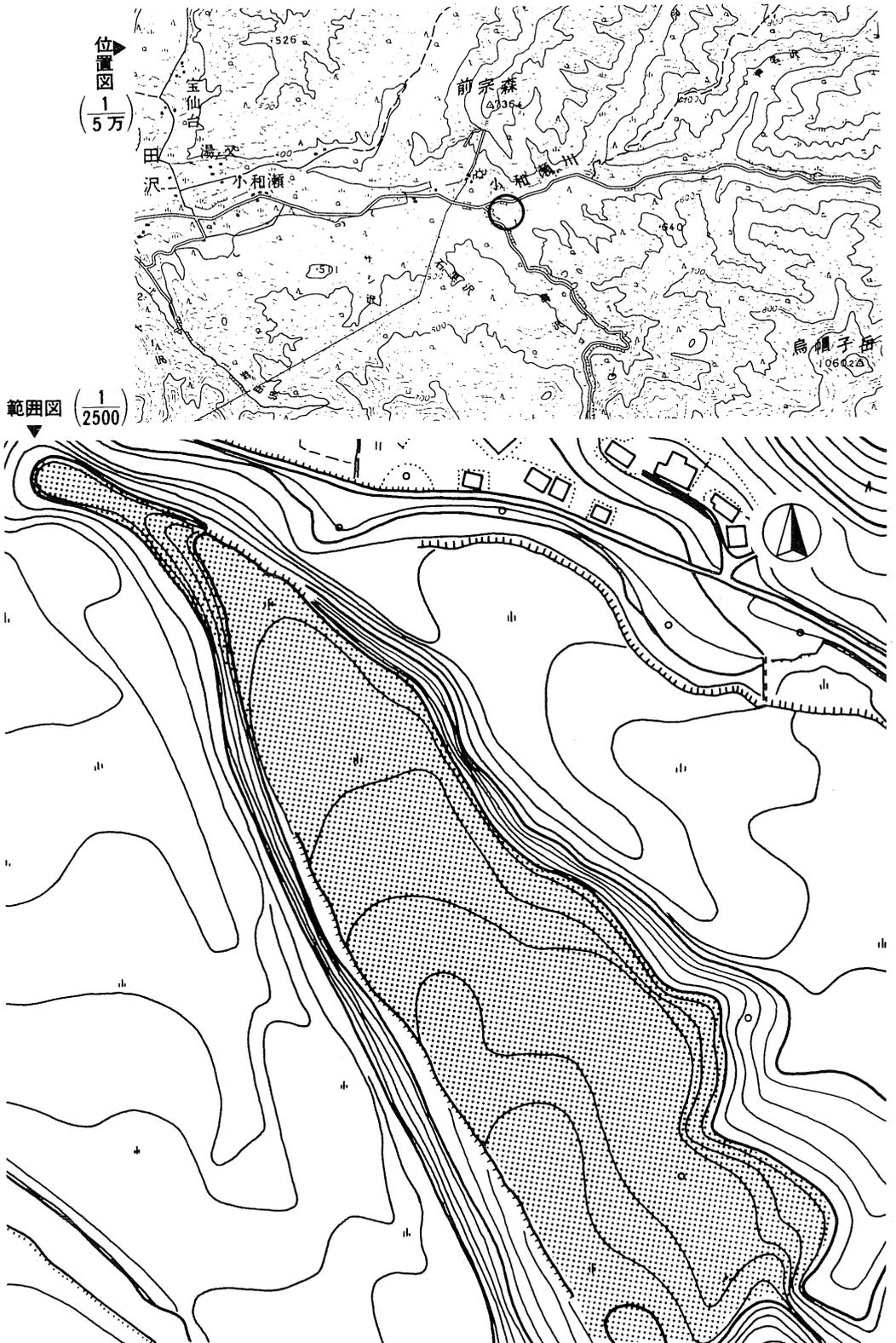
出土遺物（土師器）から平安時代の集落跡と考えられる。

7. 地層（深さ）

I層黒褐色土（表土）が10～20cmほど堆積しているだけである。

8. その他の特記事項

竪穴住居跡の周囲には、ロームがマウンド状に盛られている。



第8図 長者館遺跡位置図(上), 範囲図(下)



図版1 長者館遺跡遠景(上)遺構(下)

(2) 寺の上B遺跡

1. 所在地

鹿角市十和田毛馬内字寺の上

2. 面積

6,500m²

3. 調査期間

昭和56年6月1日～6月6日

4. 調査者

高橋忠彦

5. 遺跡の立地の特徴

遺跡は小坂川と大湯川に挟まれた標高160mほどの台地南端に位置する。遺跡の東側に中世の柏崎城があり、眼下には毛馬内の市街地が臨める。遺跡の現況は肥沃な畑地と果樹園である。

6. 範囲・時代・性格

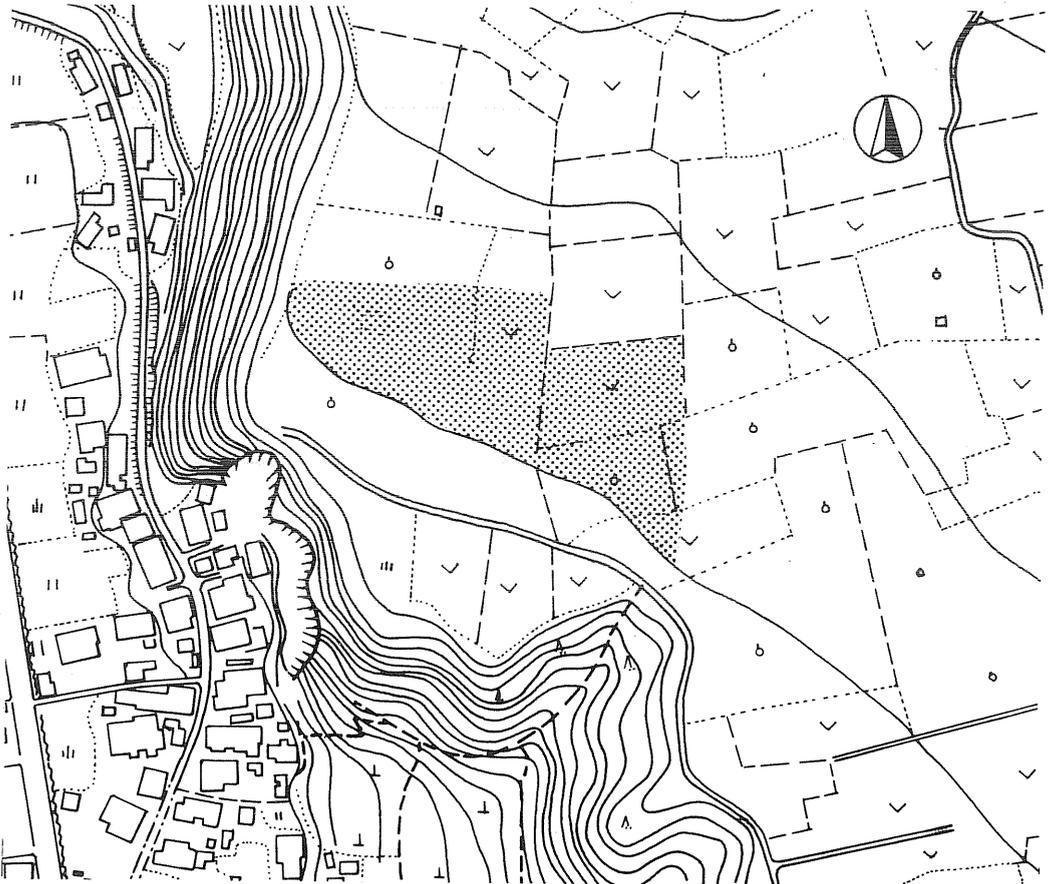
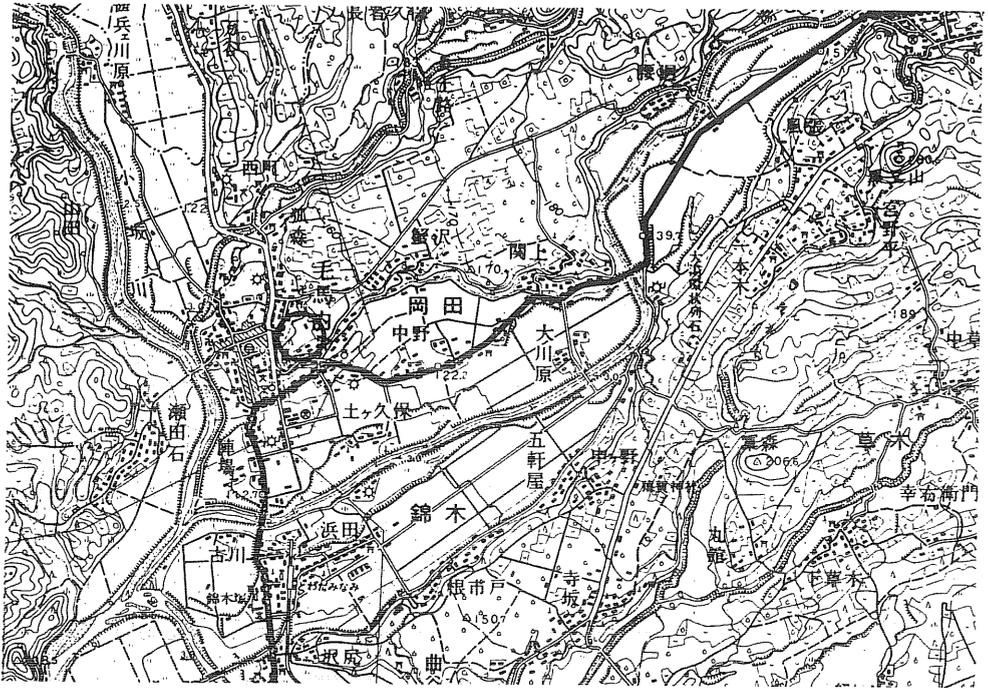
出土した遺物はなかったが、径1m、深さ50cm（ボーリング調査）円形の土壌を検出している。調査地点は遺跡の北端と考えられる。

7. 地層（深さ）

I層黒色土（30cm）II層褐色土（20cm）でII層中に浮石層がみられる。遺構確認面は、III層黄褐色ローム面である。

8. その他の特記事項

秋田県遺跡台帳によれば、寺の上B遺跡からは続縄文、小坂X式土器陶器片が出土している。



第9図 寺の上B遺跡位置図，範囲図



図版2 寺の上B遺跡遠景(上)遺構(下)

(3) 腹鞆の沢遺跡

1. 所在地

能代市腹鞆の沢18-5 他

2. 面積

A 地区	6,500m ²	D 地区	1,600m ²
B 地区	6,450m ²	E 地区	2,550m ²
C 地区	4,400m ²	F 地区	2,850m ²

3. 調査期間

昭和56年4月6日～同年4月16日

4. 調査者

永瀬福男 熊谷太郎

5. 遺跡の立地の特徴

遺跡は米代川の左岸に形成された中位段丘が開析され、舌状になった台地上に立地する。標高35～38mを測る。遺跡の現状は松林である。

6. 範囲・時代・性格

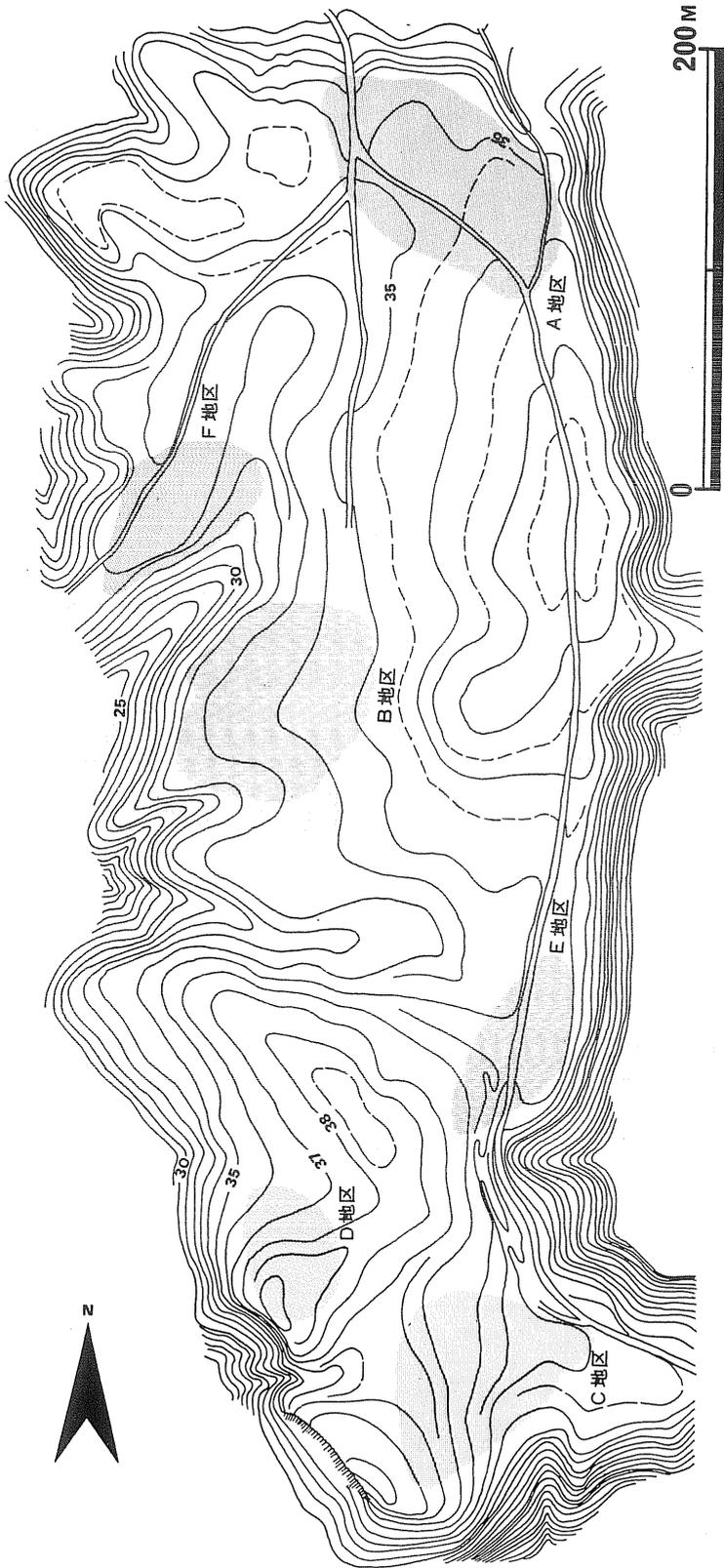
約10haの台地上には、6地点の遺跡が確認された。いずれも台地の縁辺部に位置する。A地点では平安時代の竪穴住居跡、土壙が検出され、集落跡と考えられる。B、C、E地区では縄文時代後期の土器、石器が検出され集落跡と考えられる。D地区は須恵器、土師器、縄文土器片が検出されたが性格不明である。F地区は溝状遺構、土壙が検出されたが、性格、時代は不明である。

7. 地層（深さ）

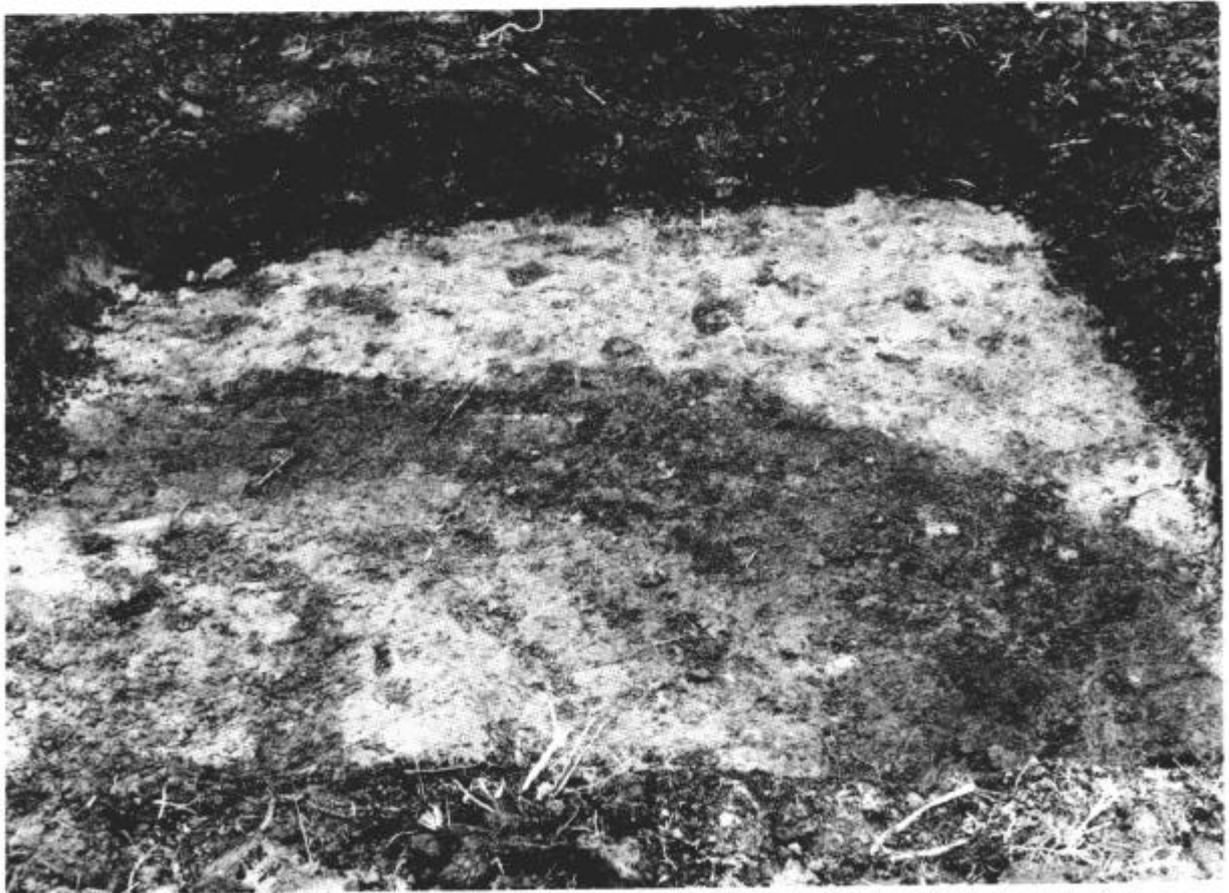
A～F地区とも、地層の構成は基本的に同じである。第I層は黒褐色土層（20～30cm）第II層は暗褐色土層（10～20cm）第III層は地山ローム層である。なお、D地区では第I層の上に飛砂が約20cmほど堆積している。

8. その他の特記事項

範囲確認調査での試掘面積は2,512m²である。



第11図 腹靴の沢道跡範囲図



図版3 腹鞆の沢遺跡現況(上)遺構(下)

(4) 上の山 I 遺跡

1. 所在地

能代市浅内字上の山（第10図参照）

2. 面積

27,700m²（大部分開田工事のため破壊）

3. 調査期間

昭和56年11月9日～11月14日

4. 調査者

永瀬福男

5. 遺跡の立地の特徴

米代川の左岸に形成された段丘の西縁に位置する。
遺跡下は沖積地となり、浅内沼が存在する。浅内沼の西方は砂丘となり、日本海に至る。現状は田地である。

6. 範囲・時代・性格

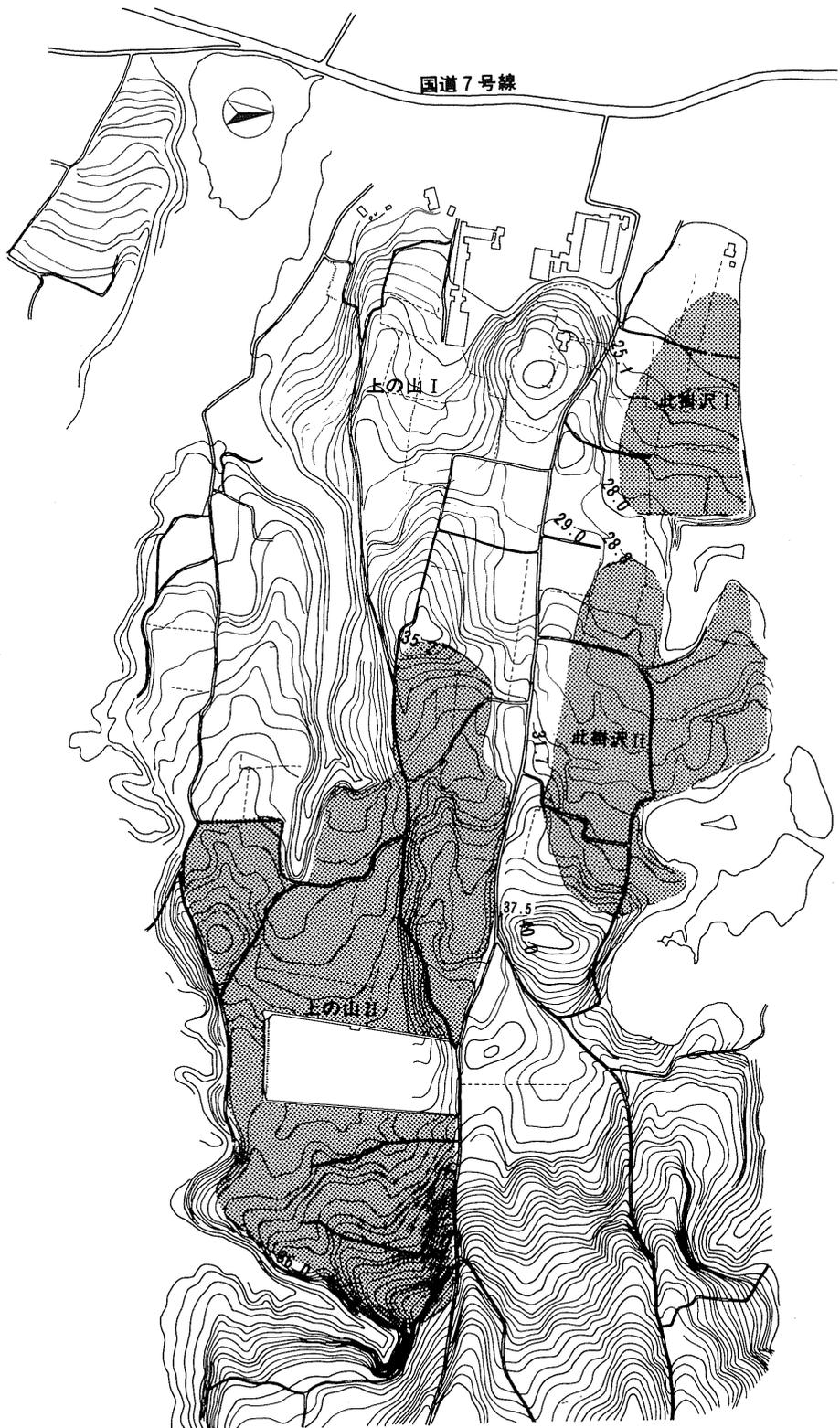
開田工事の際、大部分は破壊されてしまったものと考えられ、縄文土器片と古代の土器をわずかに出土したのみである。

7. 地層（深さ）

開田工事のため、地山ローム層まで削平されている。

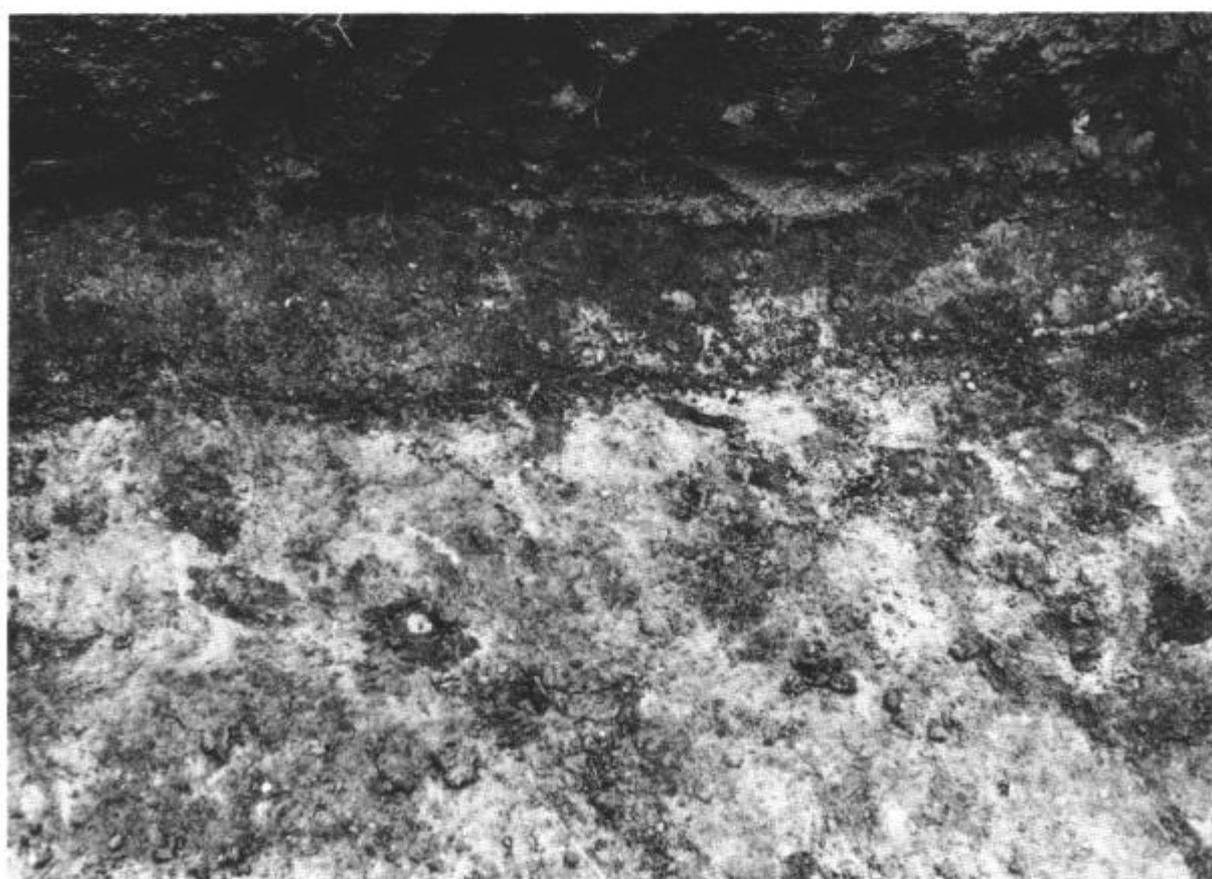
8. その他の特記事項

範囲確認調査での試掘面積は、2,688m²である。

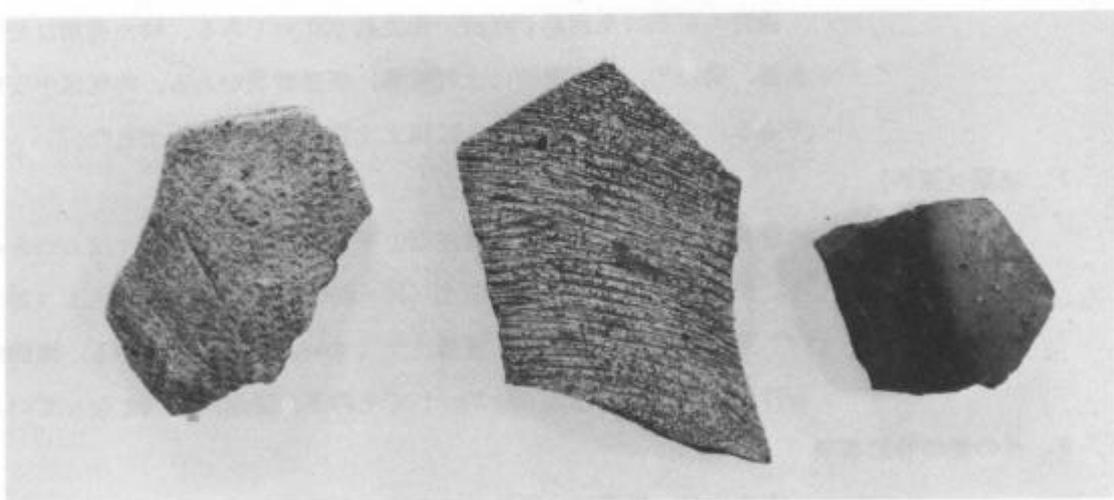
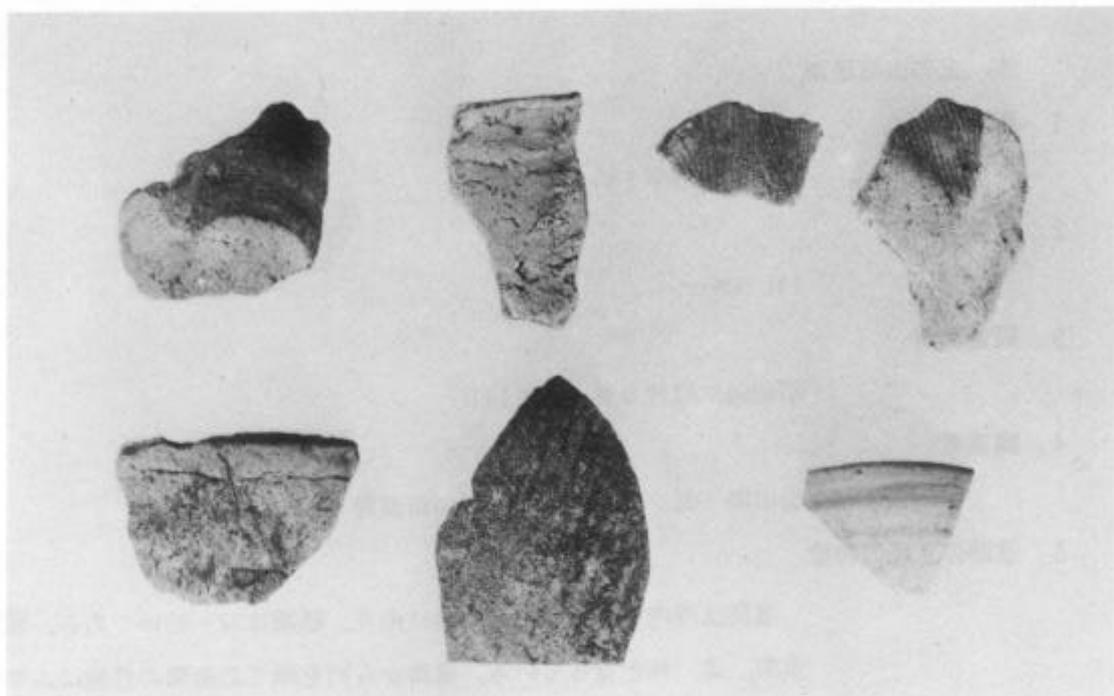


第12図 上の山 I, II, 此掛沢 I, II 遺跡範囲図





図版4 上の山I遺跡遠景(上) 遺構(下)



図版 5 上の山 I 遺跡出土遺物 (上) 上の山 II 遺跡出土品 (中, 下)

(5) 上の山Ⅱ遺跡

1. 所在地

能代市浅内字上の山

2. 面積

131,000m²

3. 調査期間

昭和56年11月9日～11月14日

4. 調査者

柴田陽一郎 高橋忠彦（上の山Ⅲ遺跡）

5. 遺跡の立地の特徴

遺跡は浅内中学校東方の台地にあり、標高は32～35mである。現況は水田、畑、林となっている。遺跡から沢を隔てた南側の台地にムサ岱遺跡があり、農道の北側には此ノ掛沢Ⅱ遺跡がある。

6. 範囲・時代・性格

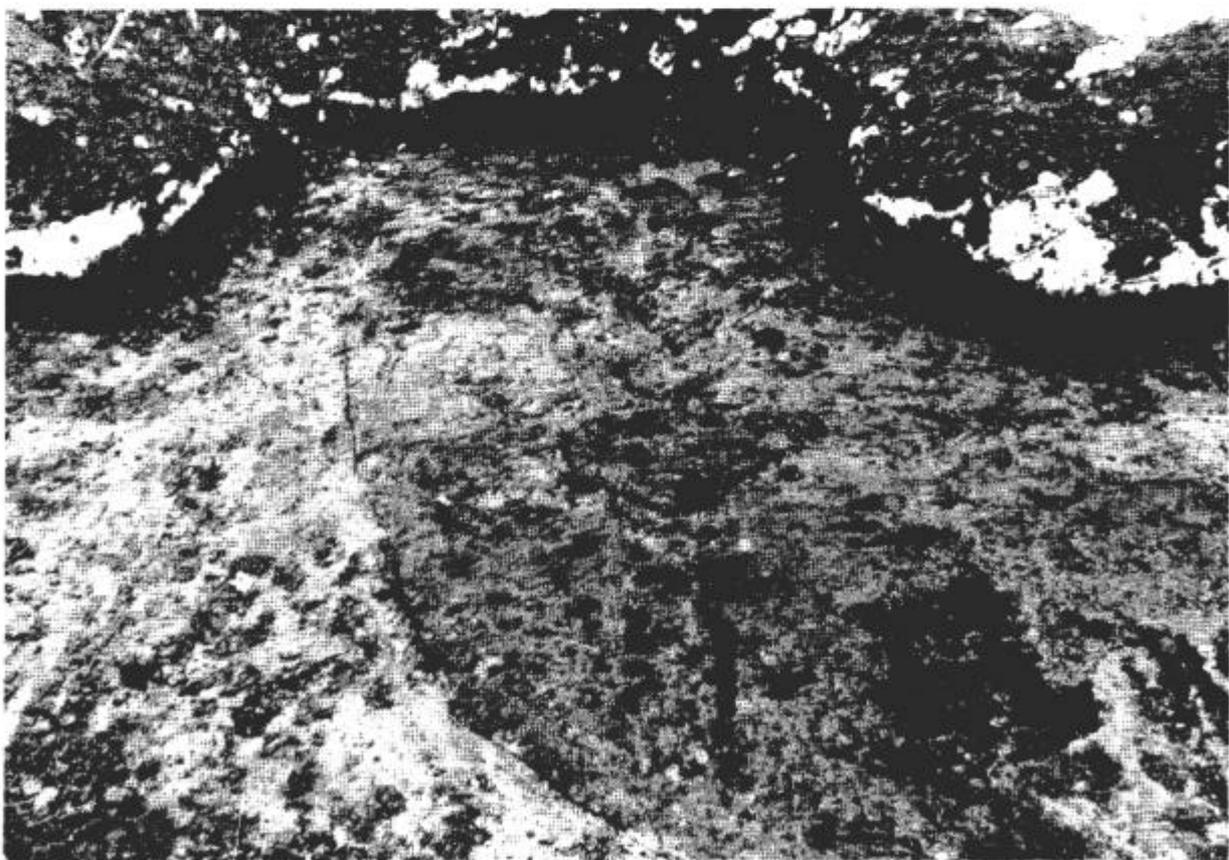
遺跡の範囲は東西約650m²、南北約300mである。検出遺構は竪穴住居跡、溝跡で、出土遺物は土師器杯、須恵器甕がある。時代は平安時代である。グラウンドの東側からは縄文土器がわずかに出土した。

7. 地層（深さ）

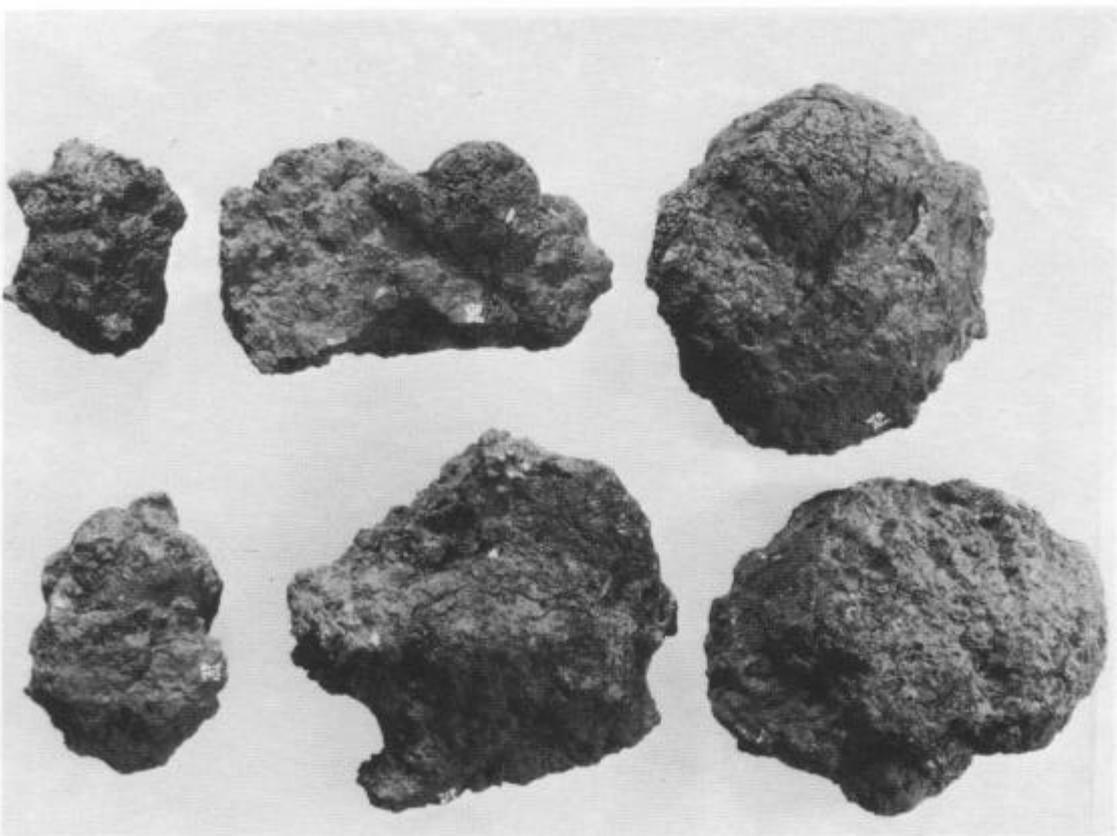
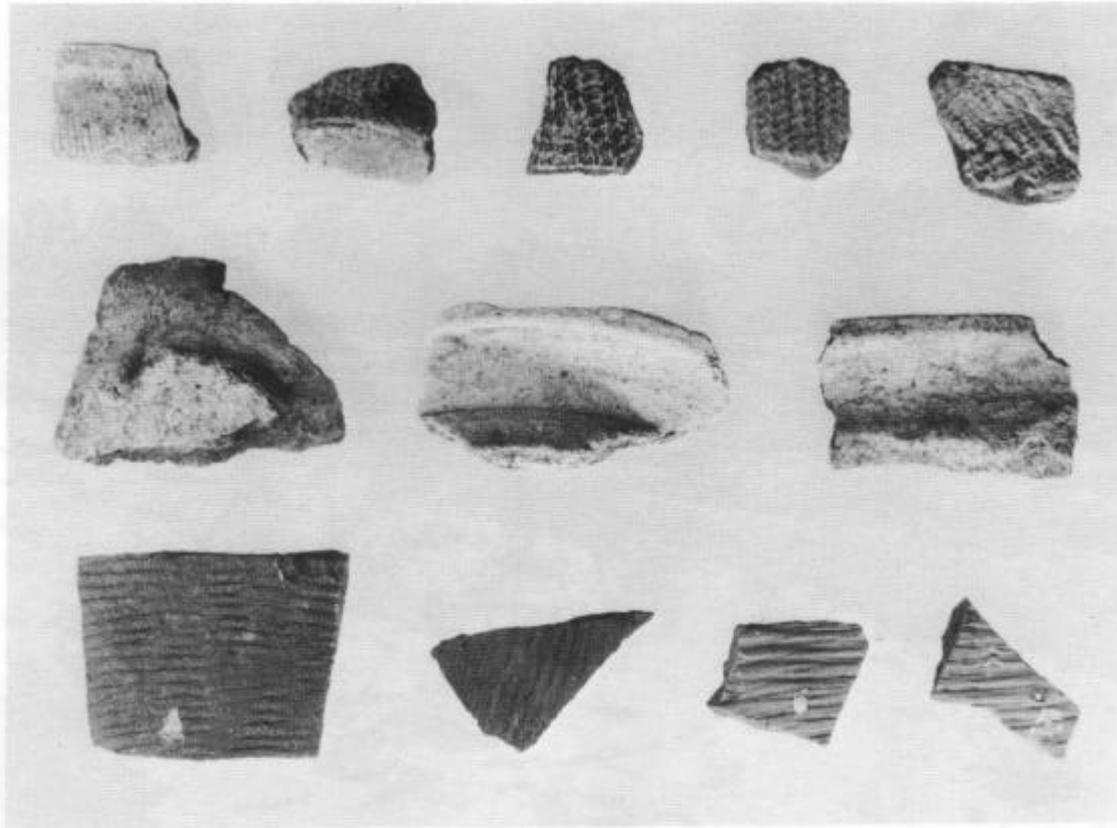
遺構確認面までの深さは緩斜面と平坦部によってかなりばらつきがある。平坦部の第Ⅰ層は黒褐色土（10～20cm）第Ⅱ層は暗褐色土（20～40cm）第Ⅲ層は遺構確認面で黄褐色土（ローム）となっている。東側の水田は第Ⅰ層が黒褐色土（約20cm）でその下が遺構確認面となっている。

8. その他の特記事項

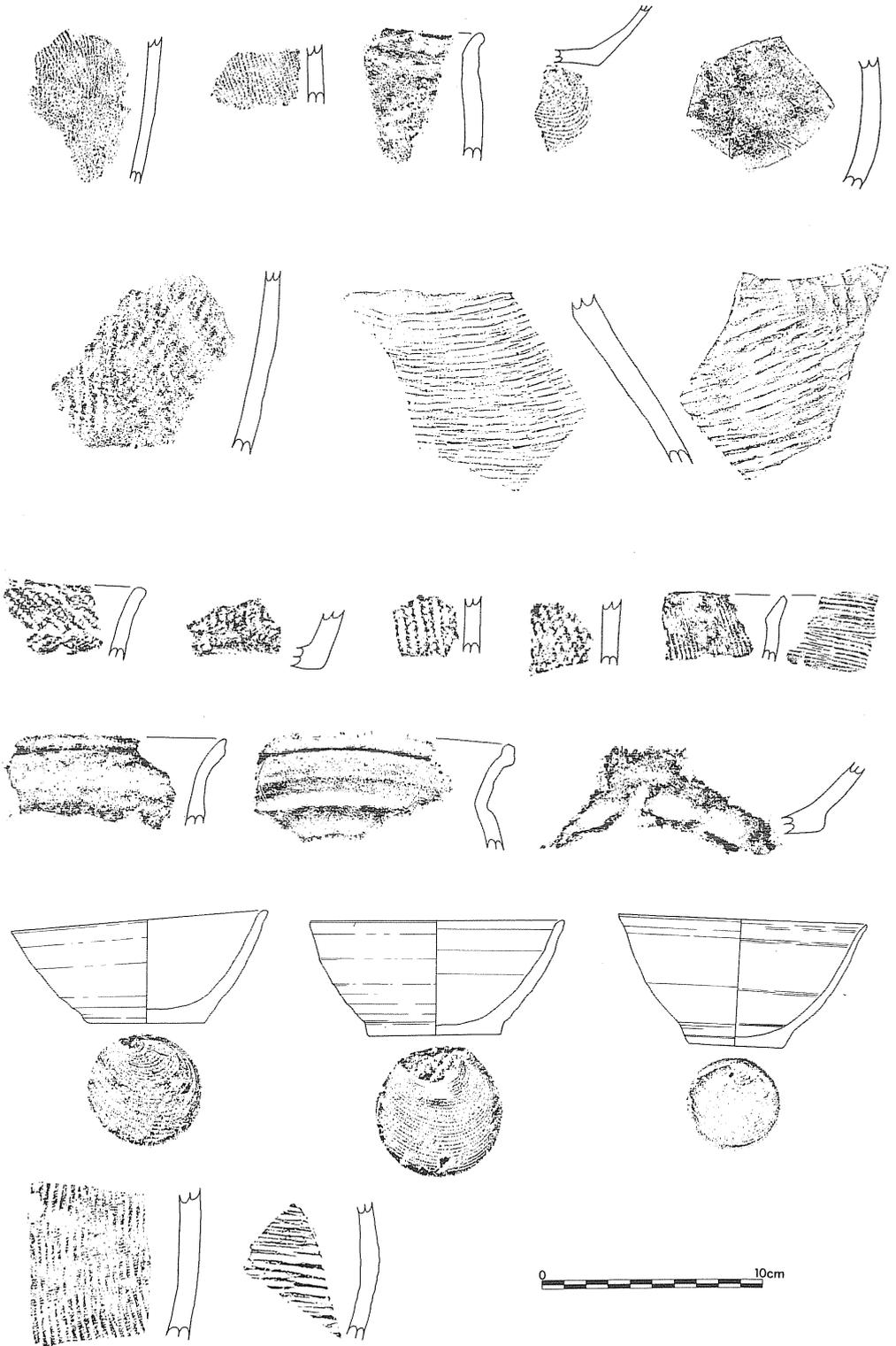
上の山Ⅱ、Ⅲ遺跡は同じ台地上にあり隣接している。縄文時代の土器が上の山Ⅲ遺跡の東側よりわずかに出土しているが、その他は平安時代の遺構、遺物のみで、その分布範囲は両遺跡にわたっている。その為、上の山Ⅱ、Ⅲ遺跡を同一遺跡とし、上の山Ⅱ遺跡とする事にした。



図版 6 上の山Ⅱ遺跡遠景(上)遺構(下)



図版7 上の山Ⅱ遺跡出土遺物



上の山 I 遺跡出土遺物（上二段），上の山 II 遺跡出土遺物（三段以下）

(6) 此掛沢 I 遺跡

1. 所在地

能代市浅内字此掛沢75他

2. 面積

21,300㎡

3. 調査期間

昭和56年11月16日～11月28日

4. 調査者

永瀬福男

5. 遺跡の立地の特徴

米代川の左岸に形成された段丘の北縁に位置する。遺跡下は米代川による沖積地が広がる。標高約 28 mを測る。段丘面は平坦面をわずかに残すものの、意外と起伏が激しい。現況は畑地、田地となっている。

6. 範囲・時代・性格

竪穴住居跡が数棟のほか、溝状遺構、土壙が検出された。住居跡のなかには、1辺約10mほどの大型の住居跡が含まれる。出土遺物から平安時代の集落跡と考えられる。

7. 地層（深さ）

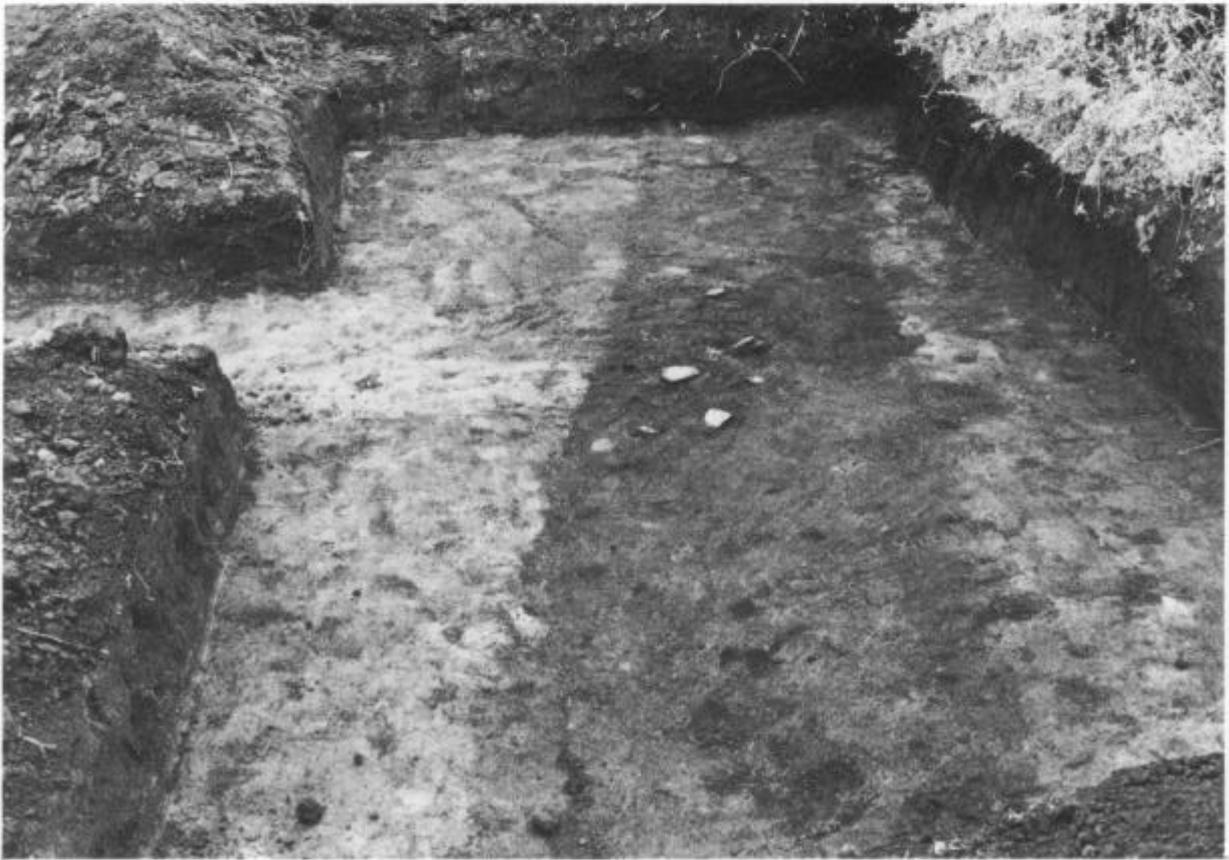
開田工事のため1部地山ロームが露出しているところもあるが、基本的層序は、第I層が黒褐色土層（30～40cm）第II層が暗褐色土層、第III層が地山ローム層である。

8. その他の特記事項

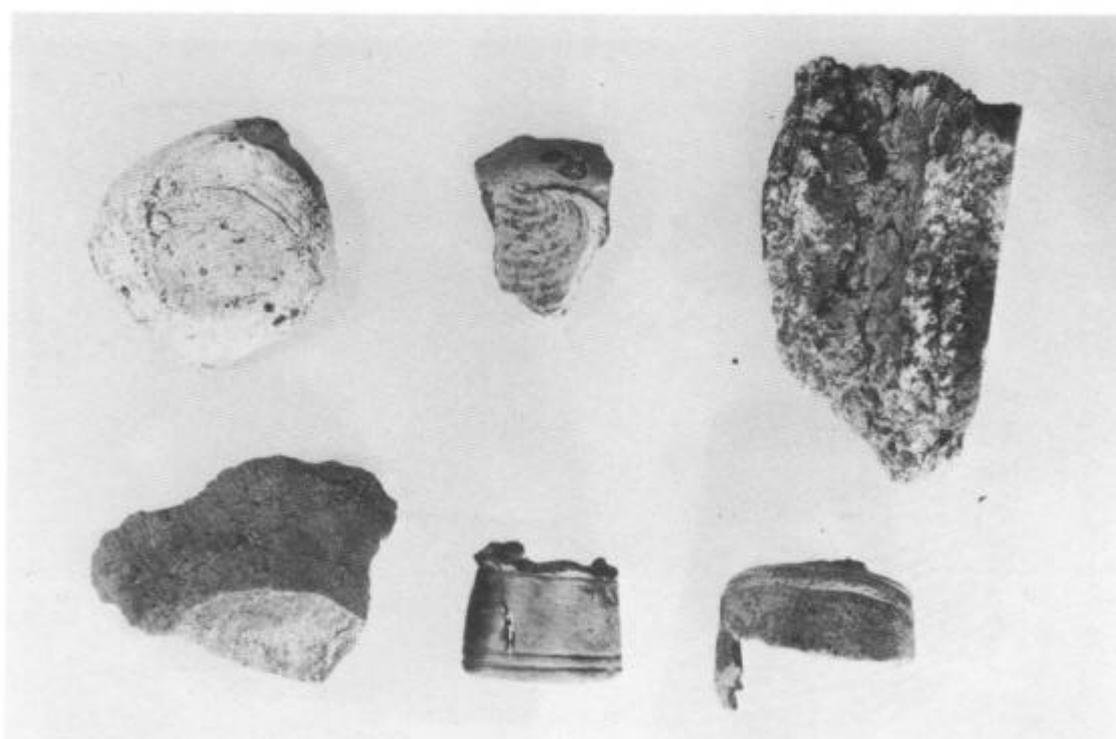
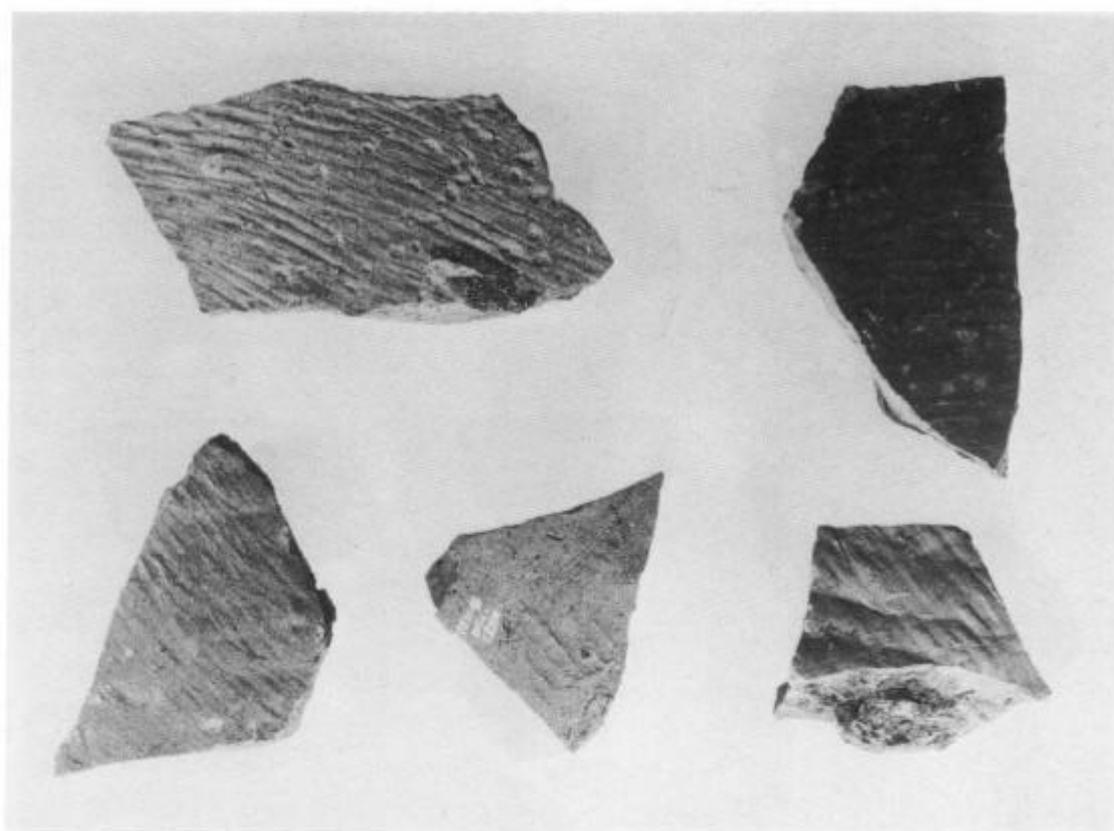
範囲確認調査での試掘面積は、2,342㎡である。



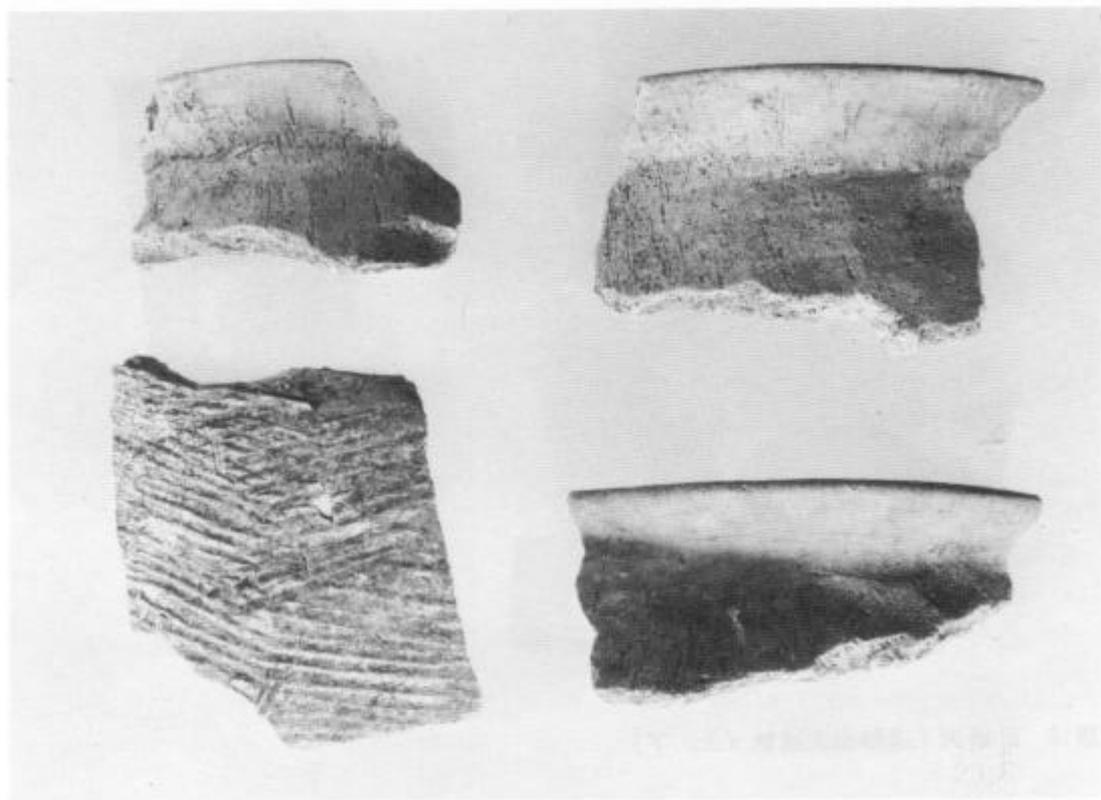
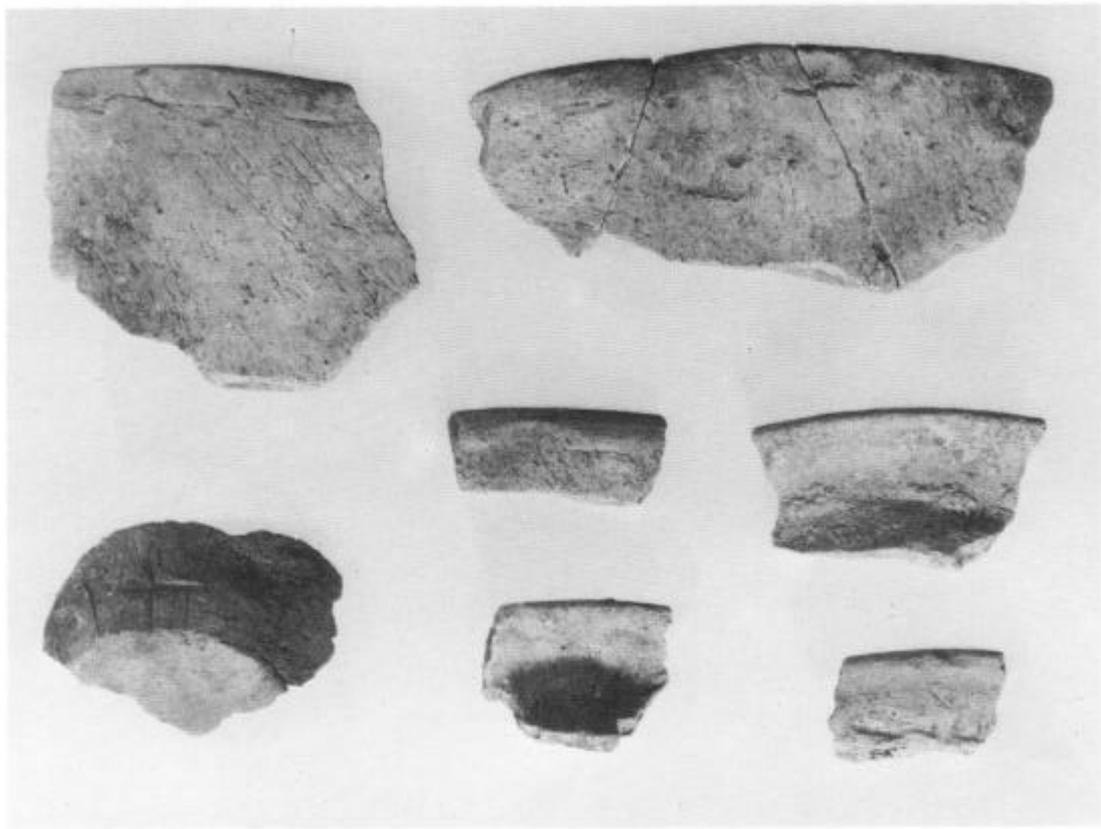
図版 8 此掛沢 I 遺跡遠景 (上) 遺構 (下)



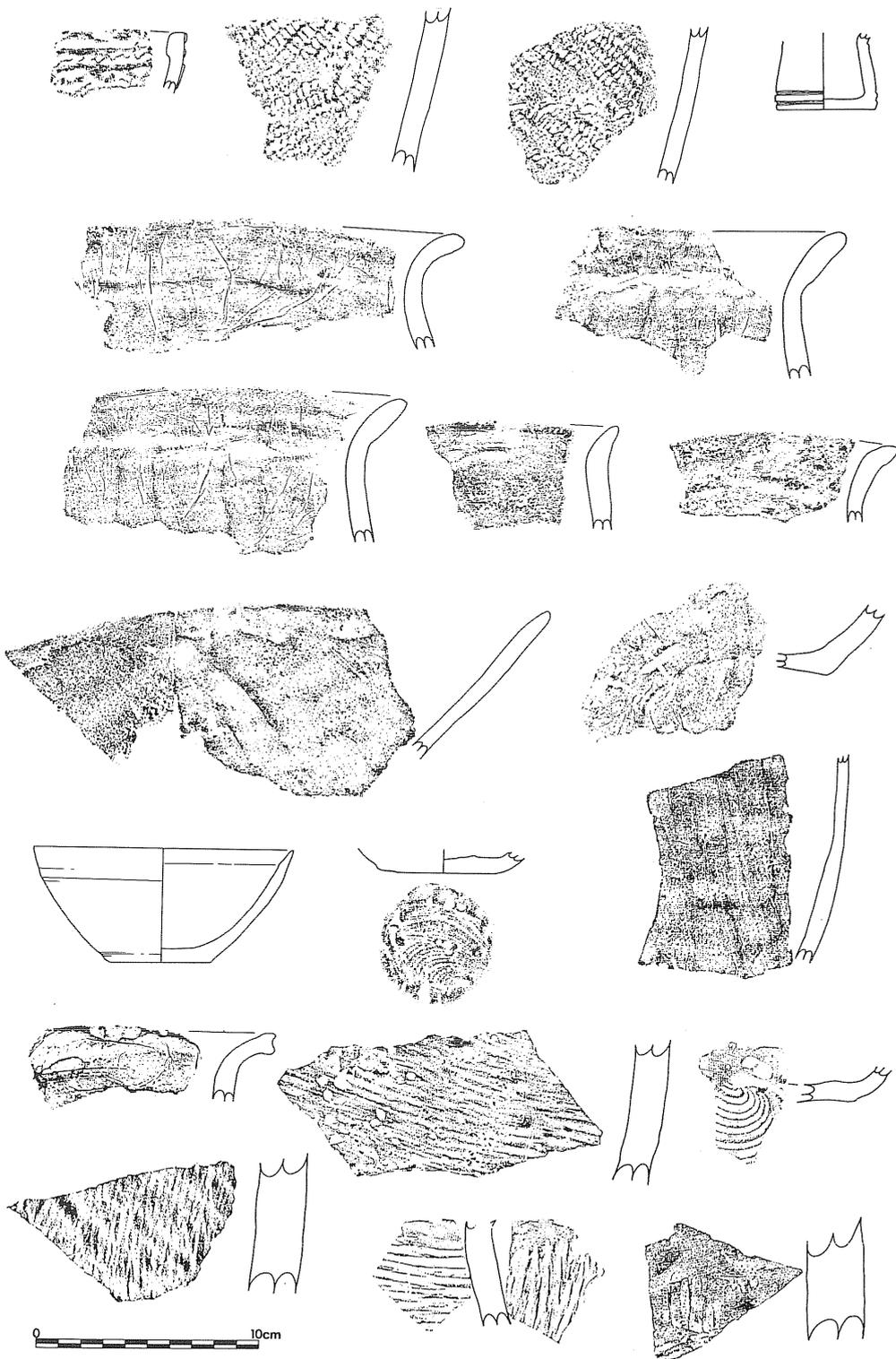
図版9 此掛沢I遺跡遺構(上,下)



图版10 此掛沢 I 遺跡出土遺物 (上, 下)



図版11 此掛沢I遺跡出土遺物（上，下）



第14圖 此掛沢 I 遺跡出土遺物

(7) 此掛沢Ⅱ遺跡

1. 所在地

能代市浅内字此掛沢119他

2. 面積

48,400㎡

3. 調査期間

昭和56年11月16日～11月28日

4. 調査者

富樫泰時

5. 遺跡の立地の特徴

米代川の左岸に形成された段丘の北縁に位置する。此掛Ⅰ遺跡の東側にありⅠ遺跡とは開折された谷で境界をなす。遺跡の西側に谷が入り込み、さらに西側でも大きく西側に入り込む谷がある。遺跡の北側は沖積地で貯水地（堤）がいくつもある。遺跡は東西の谷に挟まれた北端が高くそこから南に向って低くなり、中央部が最も低い。高い所で標高33m低い所で28mである。現況は畑地で豆、小豆、陸稻などが栽培されている。

6. 範囲・時代・性格

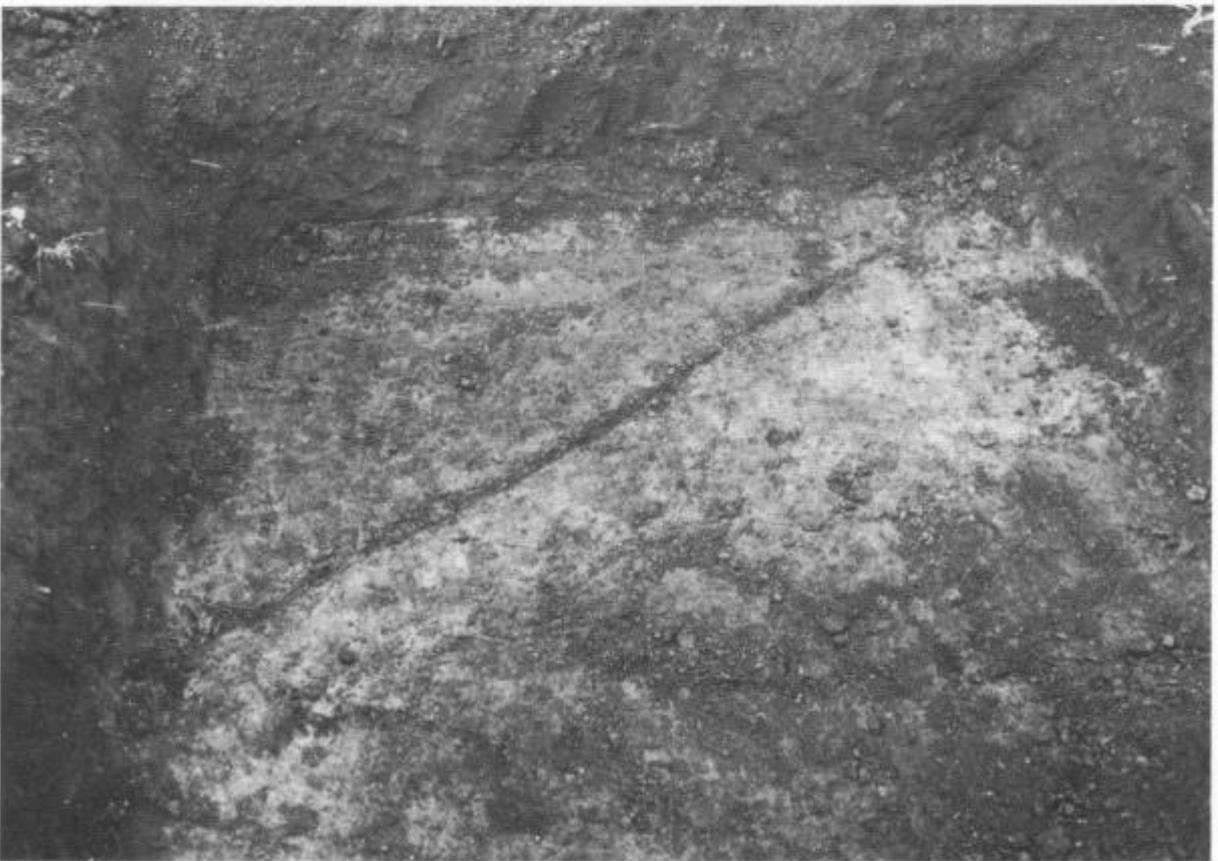
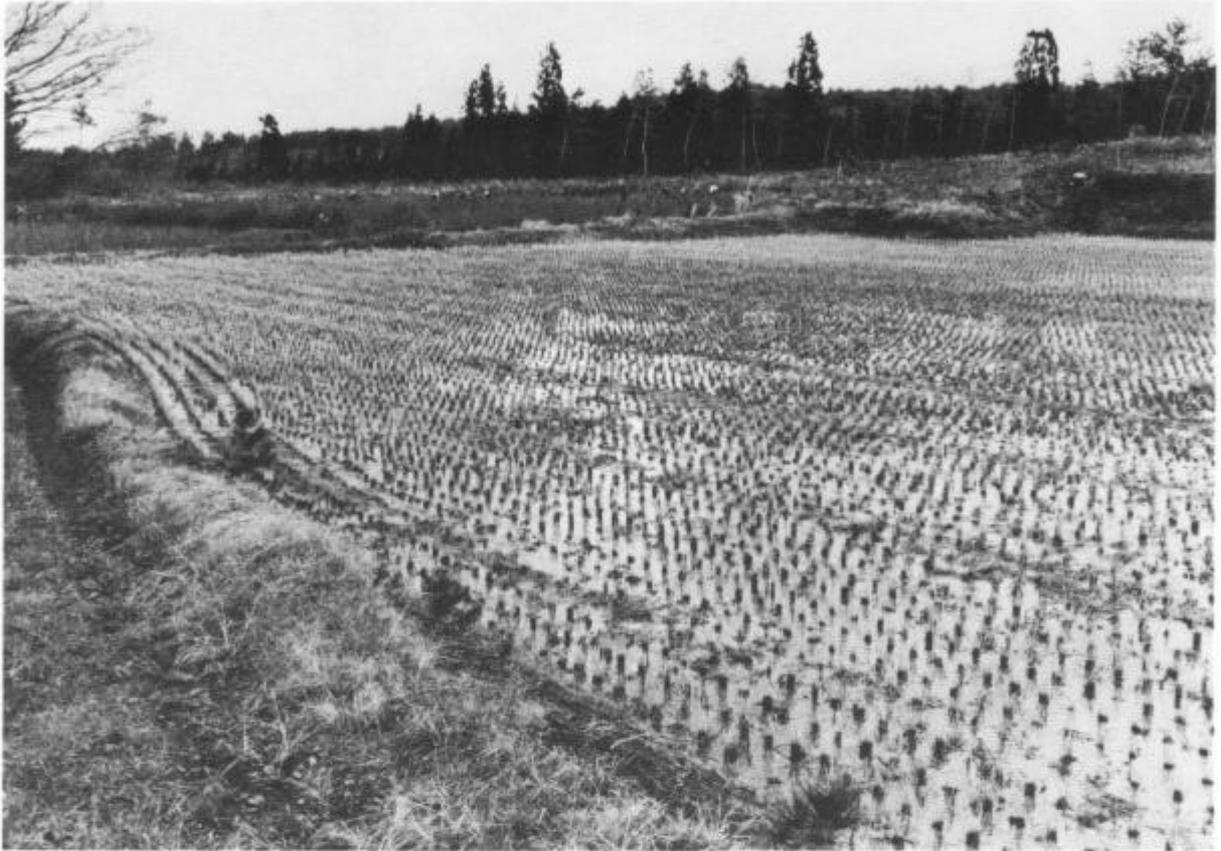
遺跡からは縄文時代後期初頭の竪穴住居跡、古代の竪穴住居跡などの遺構が確認された。他に東北端の一段高い地点には旧石器時代の遺跡が確認された。出土品の中に米ヶ森型台形石器とその石核などがあり注目される。この地点はローム面まで削られているが旧石器時代の包含層は残っている。

7. 地層（深さ）

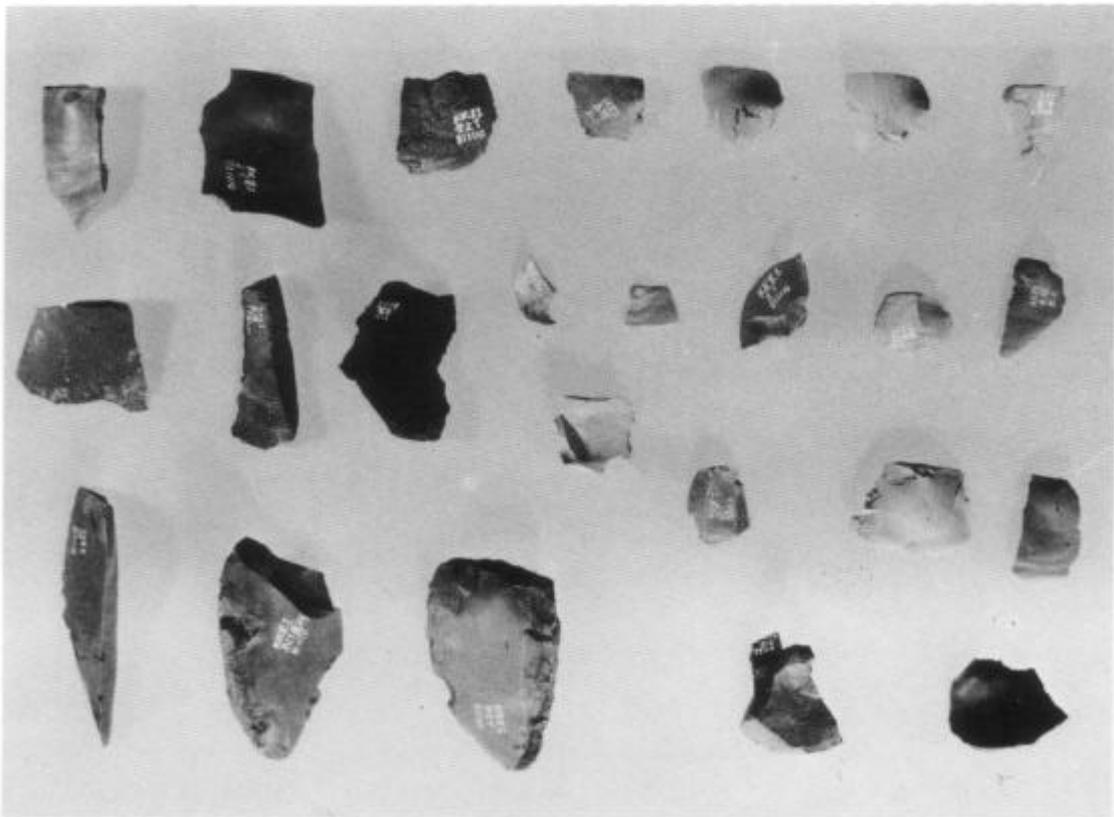
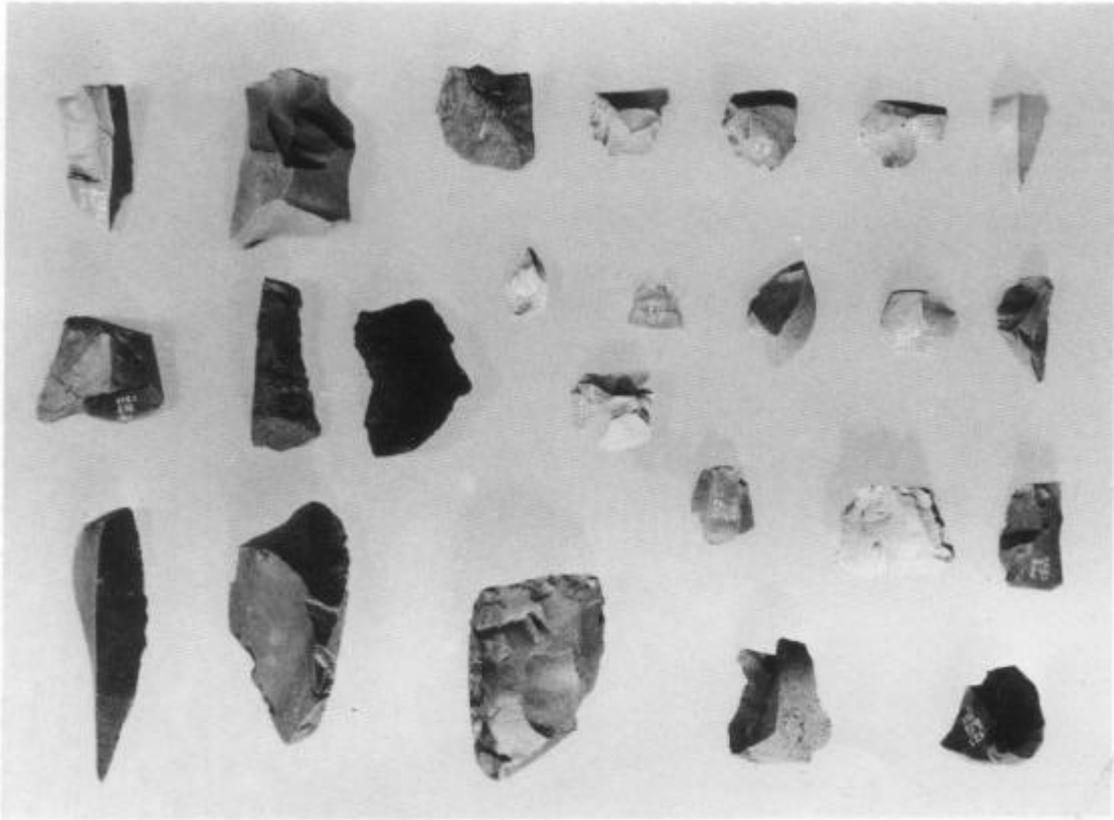
一部高い所が農地造成のため削られロームが露出している所がある。基本層序はⅠ層耕作土、Ⅱ層黒色土、Ⅲ層暗褐色土、Ⅳロームとなっている。低い所にⅡ、Ⅲ層が厚く堆積しロームまで1mを越す所もある。

8. その他の特記事項

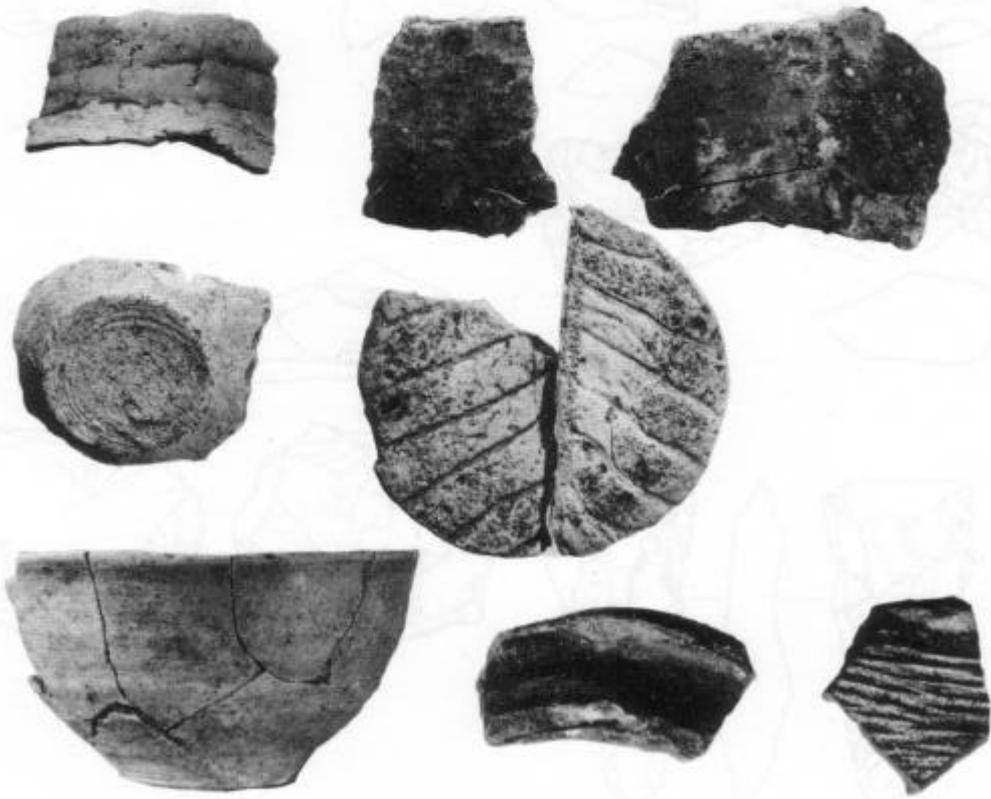
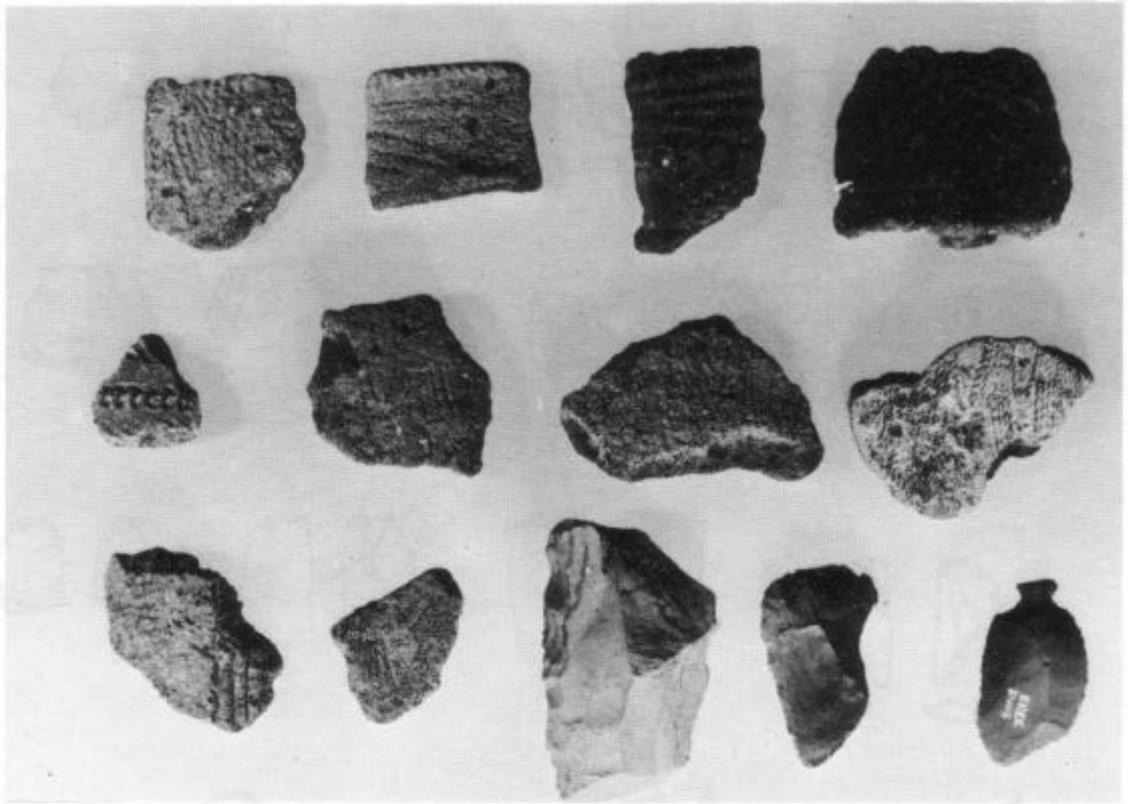
旧石器時代、縄文時代、古代と大きく三時代の遺跡が所在する。旧石器時代の遺跡（包含層まで）が確認されたのは米代川流域では初めてのことである。遺跡の面積は48,400㎡である。



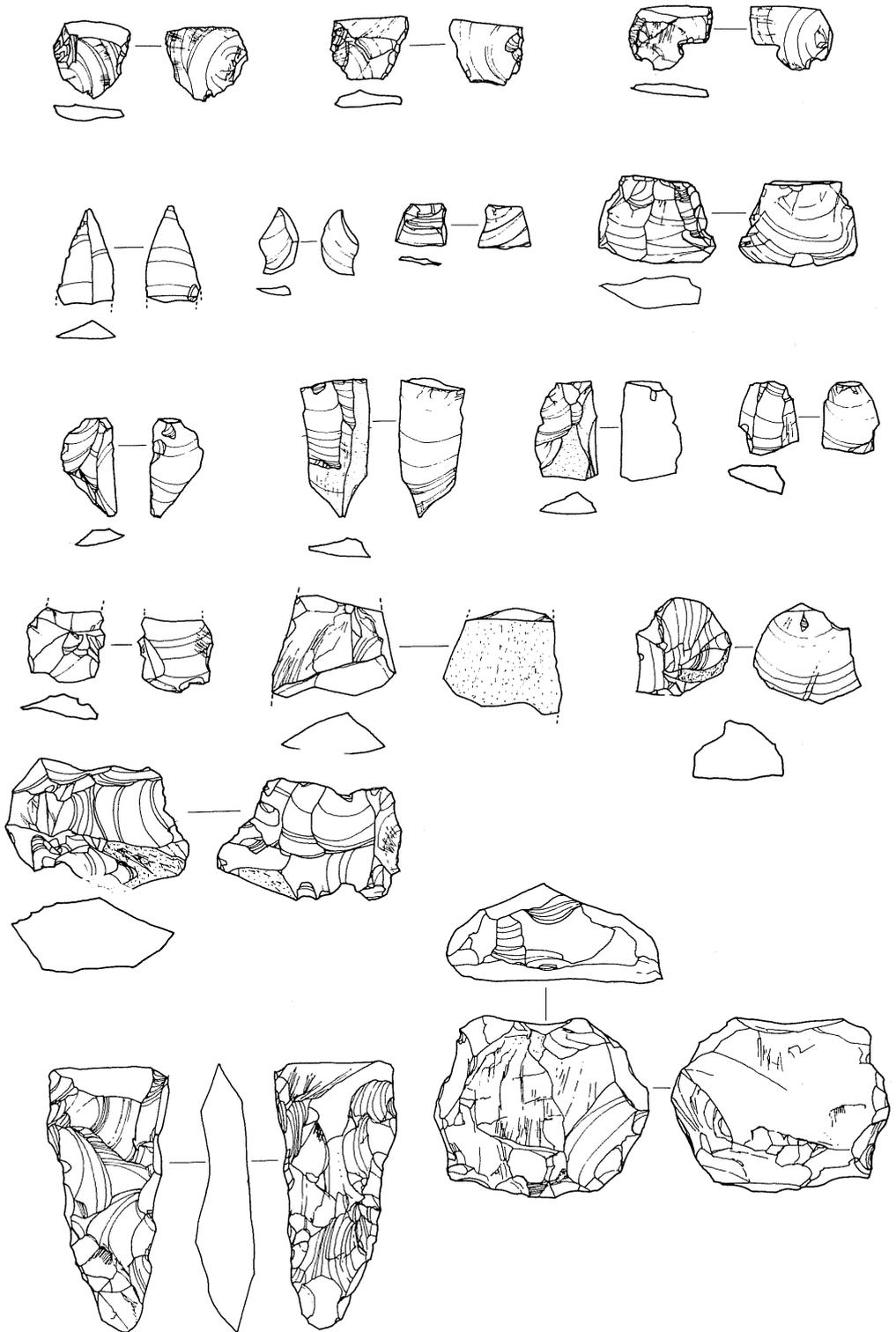
図版12 此掛沢II遺跡遠景(上)遺構(下)



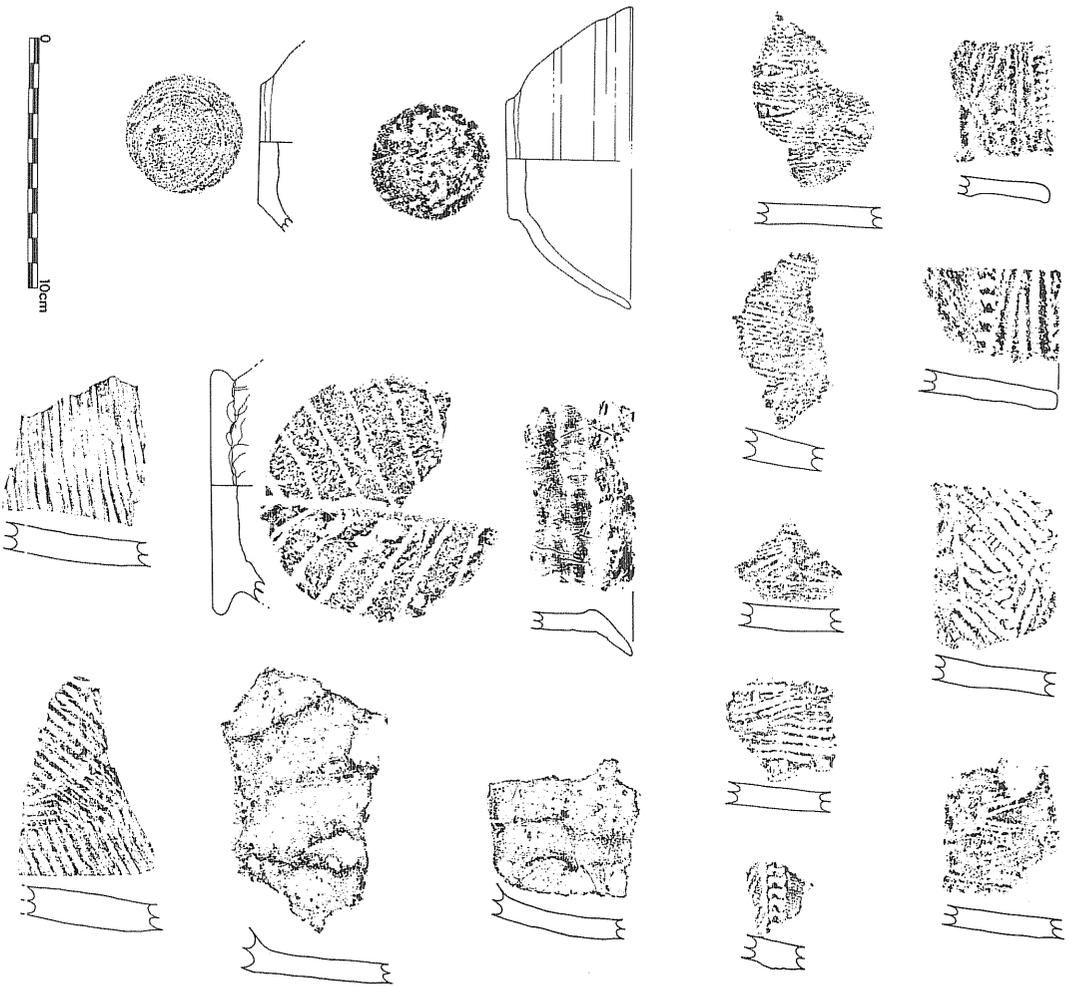
図版13 此掛沢II遺跡出土遺物（旧石器）（上，下）



図版14 此掛沢II遺跡出土遺物（上，下）



第15図 此掛沢II遺跡出土遺物（旧石器他）



第16图 此掛沢II遺跡出土遺物

(8) 逆川遺跡

1. 所在地

山本郡山本町外岡字渡道

2. 面積

3. 調査期間

昭和56年11月16日～20日

4. 調査者

柴田陽一郎

5. 遺跡の立地の特徴

遺跡は山本町の逆川集落の南方約400mの台地上にあり、標高は42mである。現況は農道をはさんで東側が水田と畑、西側が松林となっている。

6. 範囲・時代・性格

農道の東側の水田と畑はほとんどが10～30cmでロームに達する。遺構は検出されず、縄文土器、土師器、須恵器の破片がわずかに出土したにすぎない。林を水田や畑に造成した際に破壊されたものであろう。

西側の松林では西北端斜面で旧石器が出土した。その東側は松の抜取りによる穴が所々にあけられ、凹地となっている。

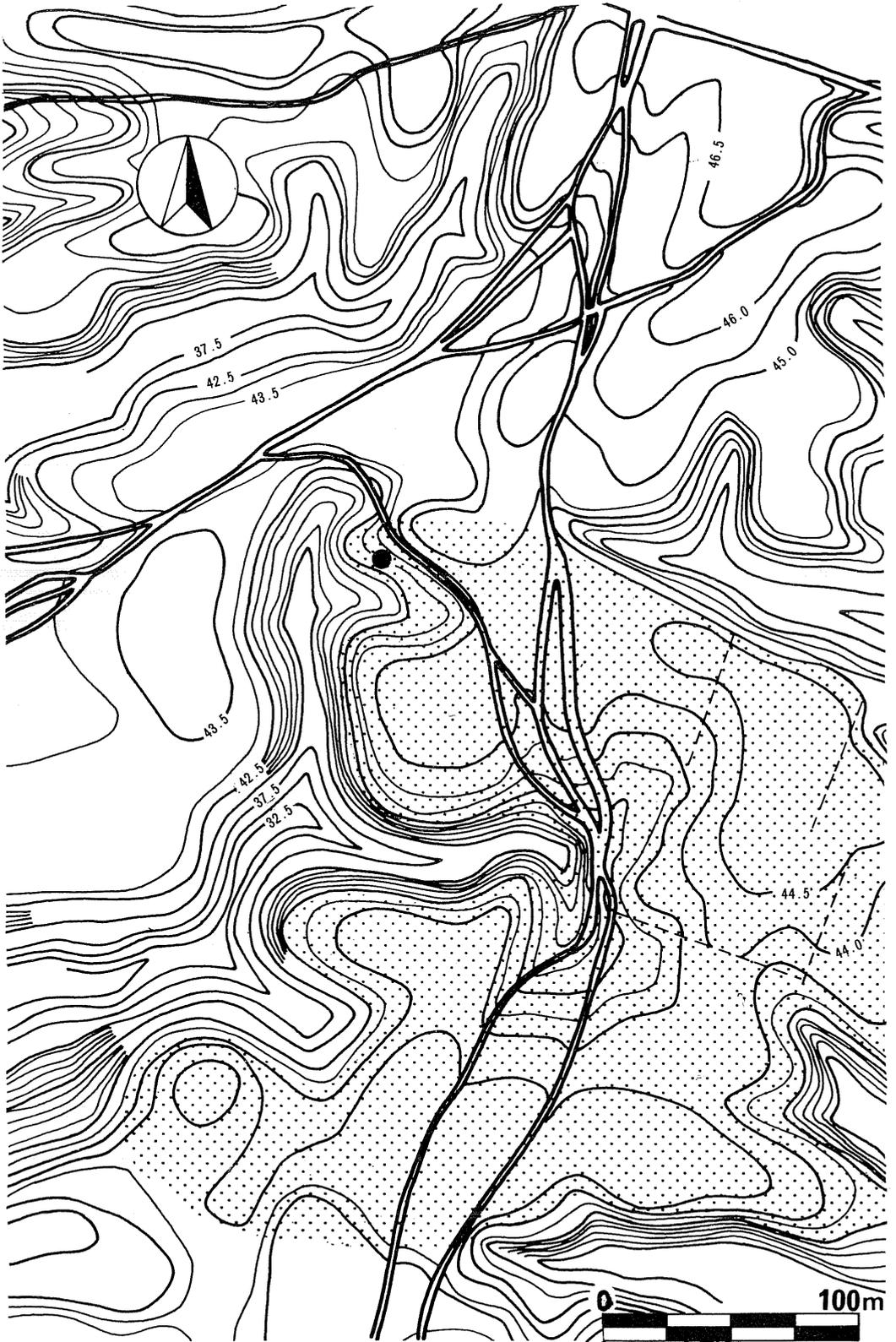
7. 地層（深さ）

旧石器が出土した地点は緩斜面となっている。表土は薄く約30cmでロームに達する。その地点から東側は、ロームまでの深さが約40cmである。

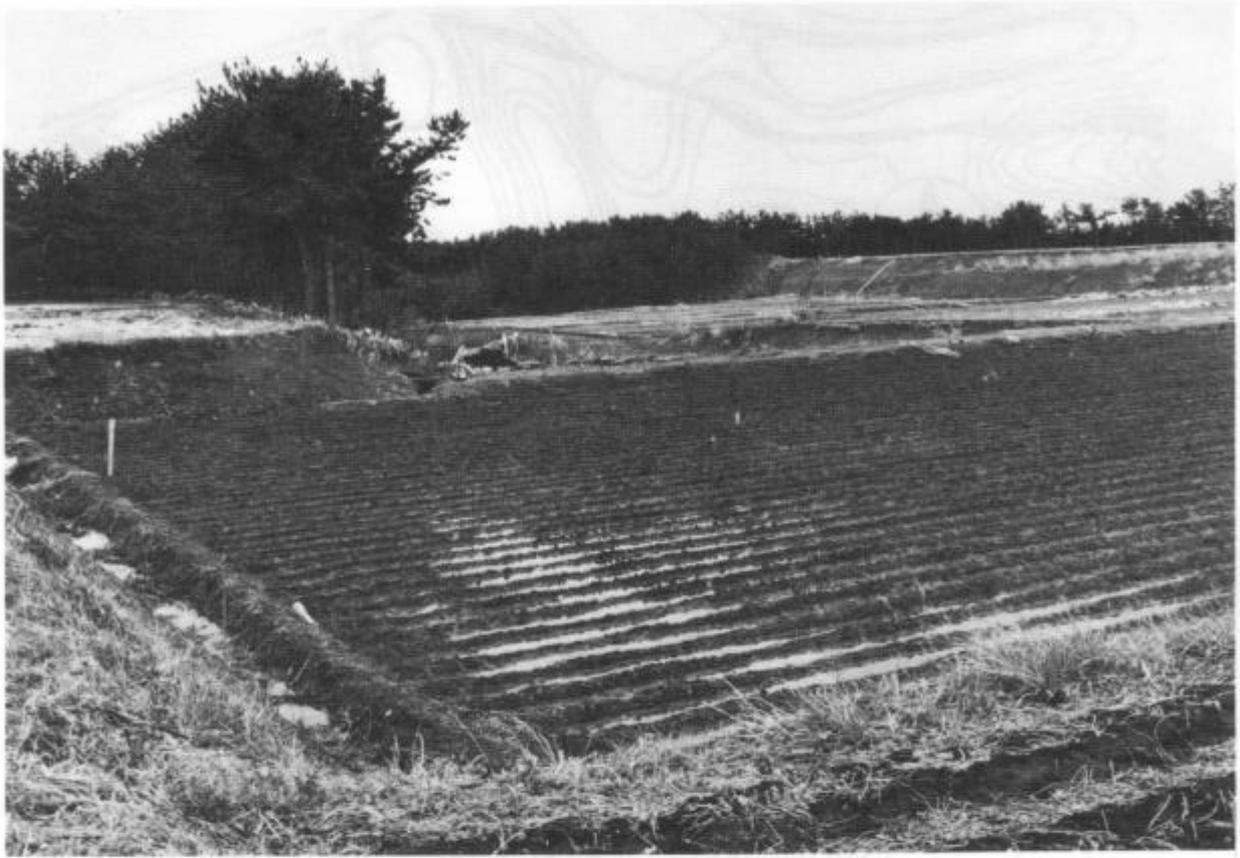
8. その他の特記事項

今回の分布調査では期間の最終日に遺跡の西端部で石器が出土した。後日旧石器であることが判明。

したがって、旧石器時代の遺跡の範囲については、再調査が必要である。



第17図 逆川遺跡調査地域図 ●印旧石器出土地点



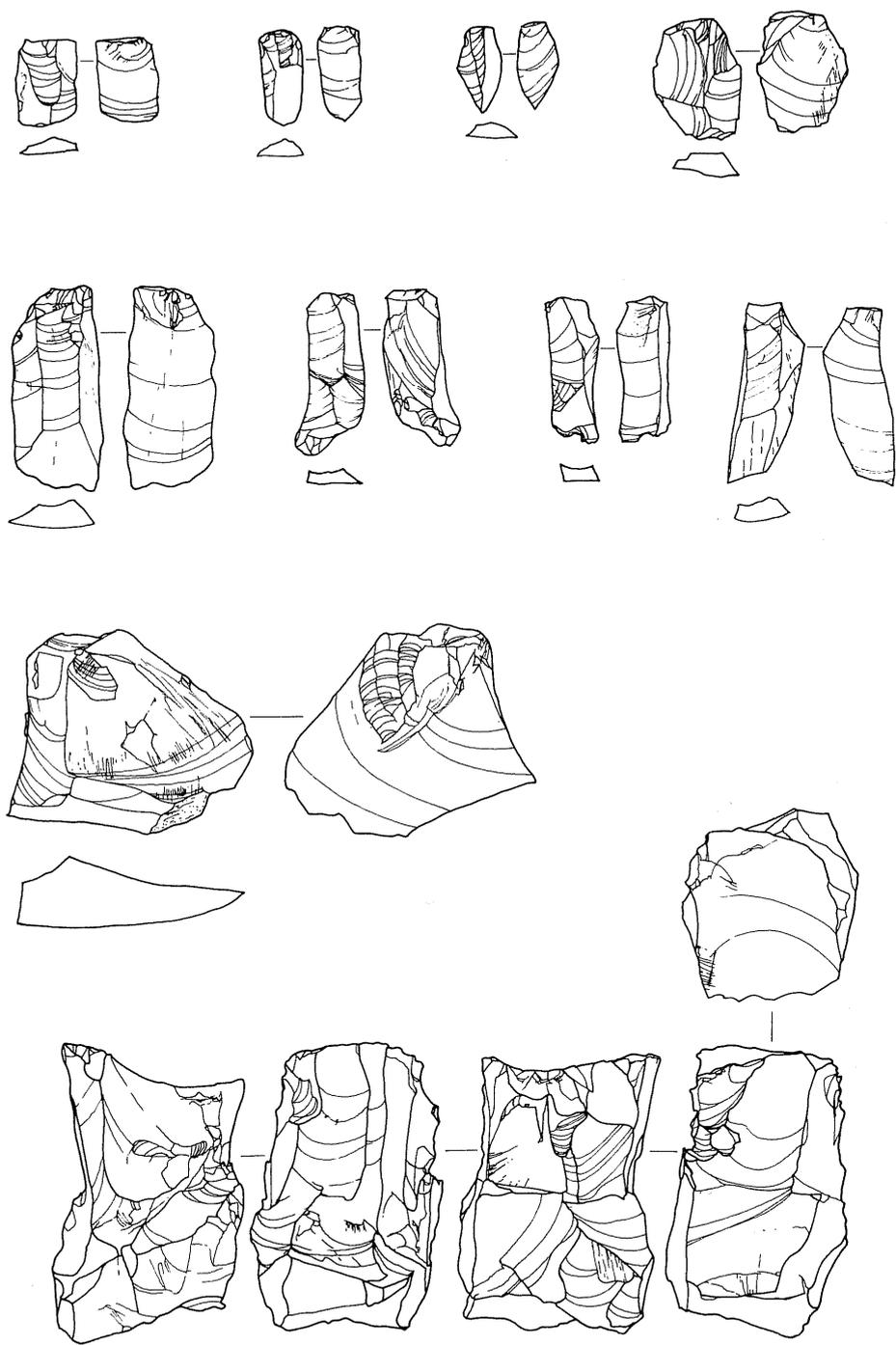
図版15 逆川遺跡遠景（上）旧石器出土状況（下）



図版16 逆川遺跡出土遺物・旧石器（上，下）

（上） 逆川遺跡出土遺物・旧石器（上）

（下） 逆川遺跡出土遺物・旧石器（下）



第18図 逆川遺跡出土遺物（旧石器）

(9) 大野地遺跡

1. 所在地

南秋田郡井川町坂本字大野地

2. 面積

13,500m²

3. 調査期間

昭和56年11月16日～11月20日

4. 調査者

高橋忠彦

5. 遺跡の立地の特徴

遺跡は八郎潟東岸より5km東に入った丘陵の南側斜面、標高35～40mに位置する。大野地部落と赤沢部落とを結ぶ道路を挟んで南北に広がる遺跡である。遺跡南西部は土取り工事のために破壊されている。

6. 範囲・時代・性格

縄文時代前期から後期の土器片が多数出土した。遺構は竪穴住居跡、土壇、焼土遺構等である。また、土取り工事によって露出しているフラスコ状ピットには貝が含まれており、この遺跡が縄文時代前期・後期の集落跡と考えられる。

7. 地層（深さ）

I層表土（20cm）II層黒褐色土（30cm）III層褐色ロームとなり、場所によっては深さが1m以上のところもある。

8. その他の特記事項

遺跡の発見は昭和55年6月のことで、その際に採集された貝類は鑑定の結果ヤマトシジミ、ハマグリ、アカニシ等であることが報告されている。

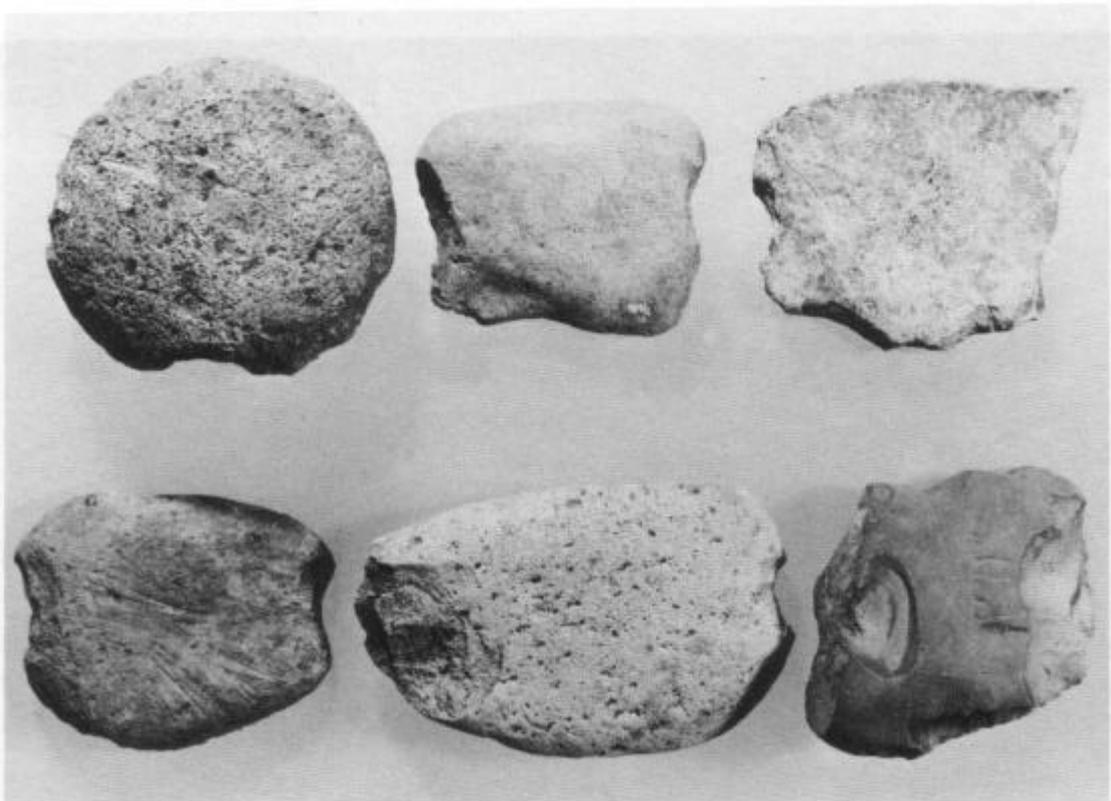
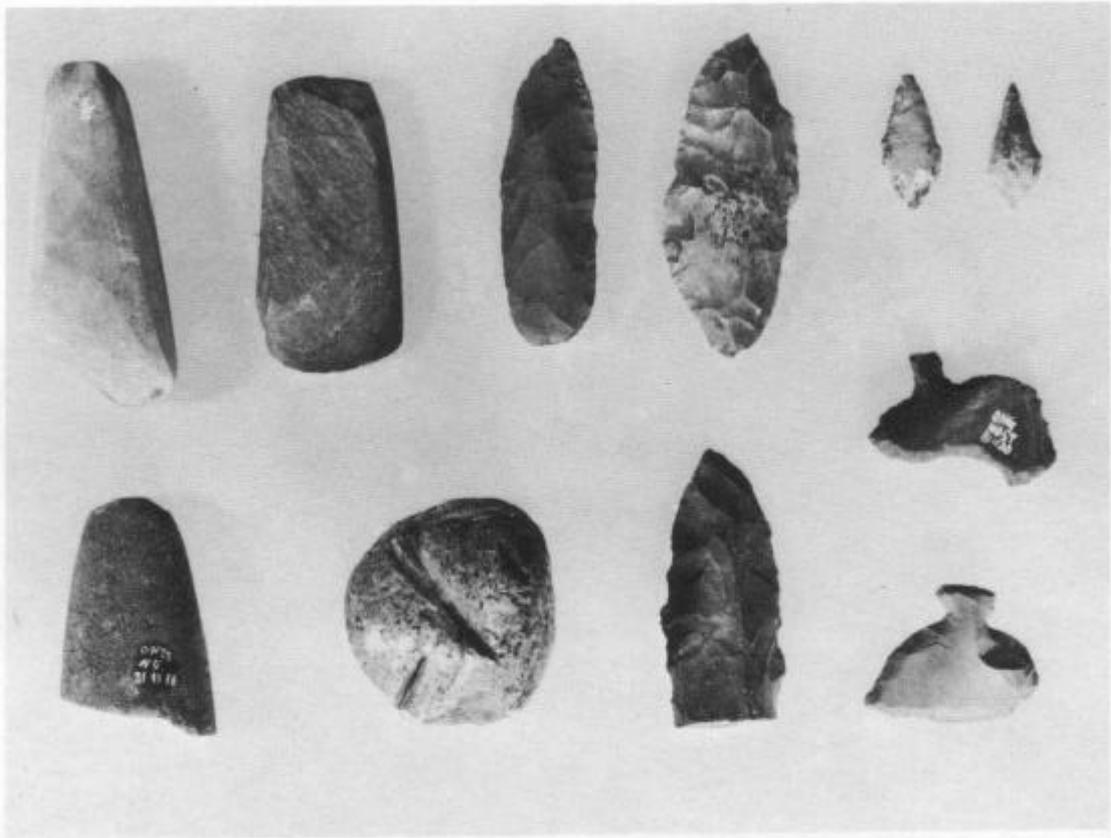
「秋田県立博物館ニュース」No.23. 27



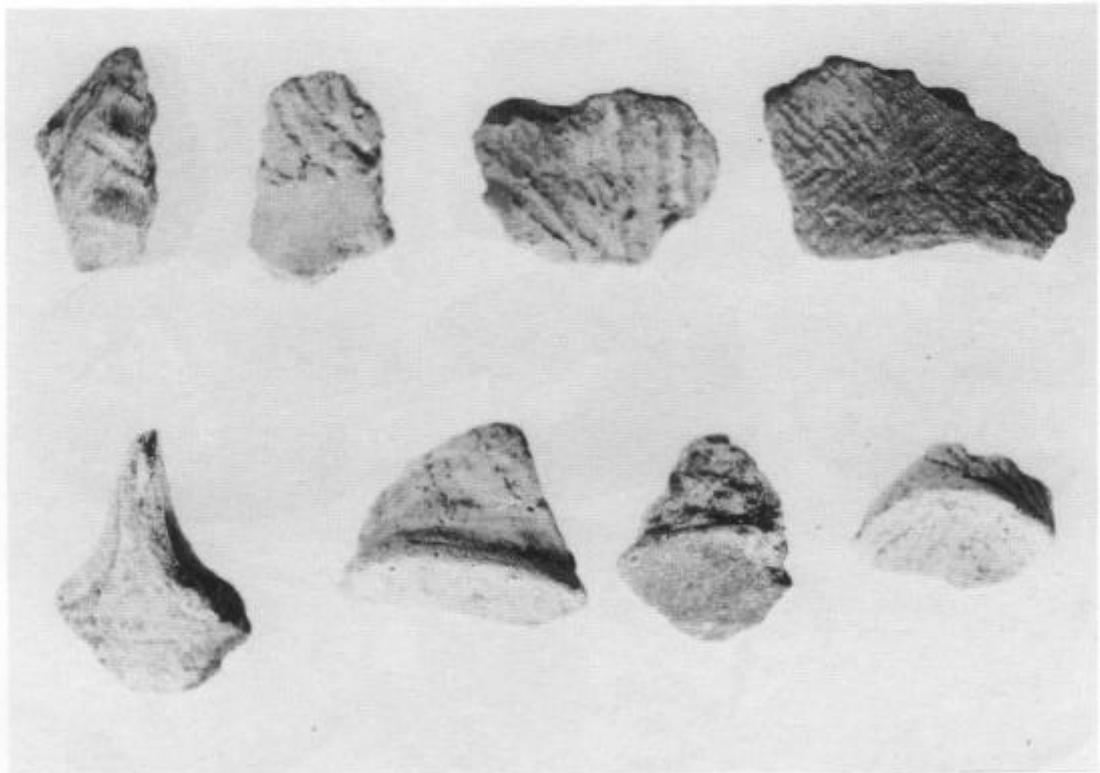
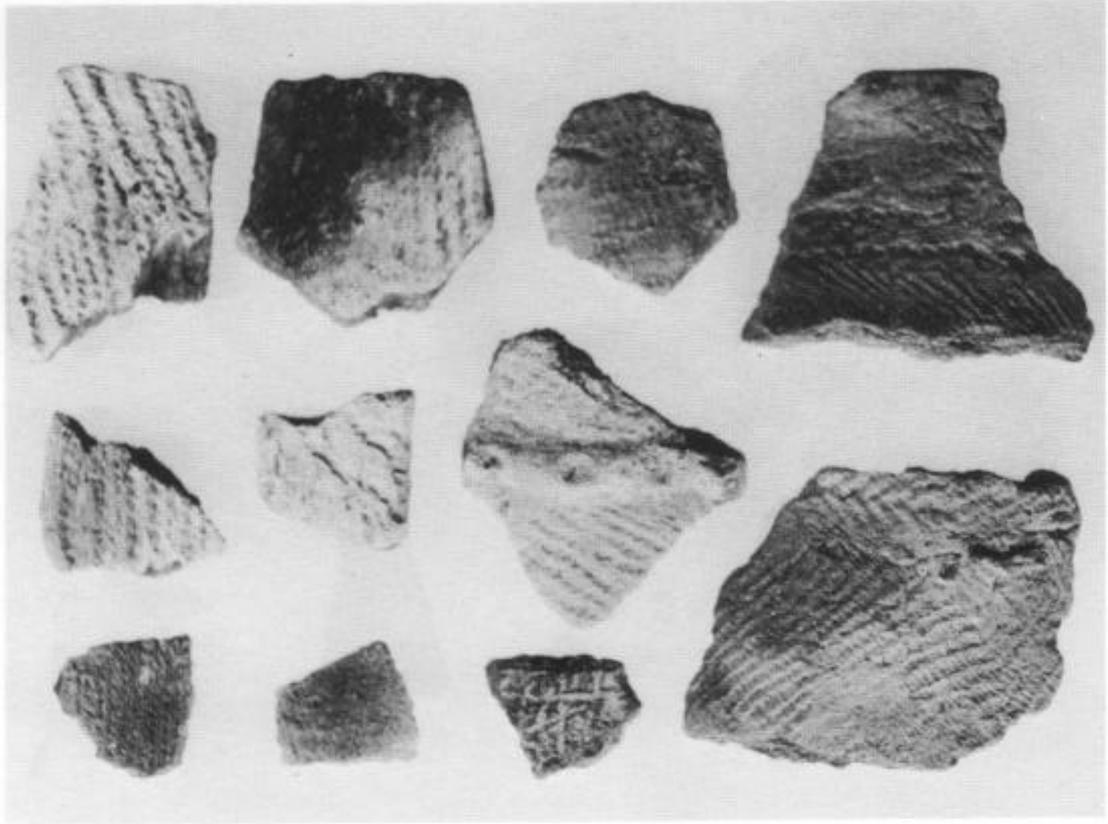
第19図 大野地遺跡位置図(上), 範囲図(下)



図版17 大野地遺跡現況（上）遺物出土状況（下）



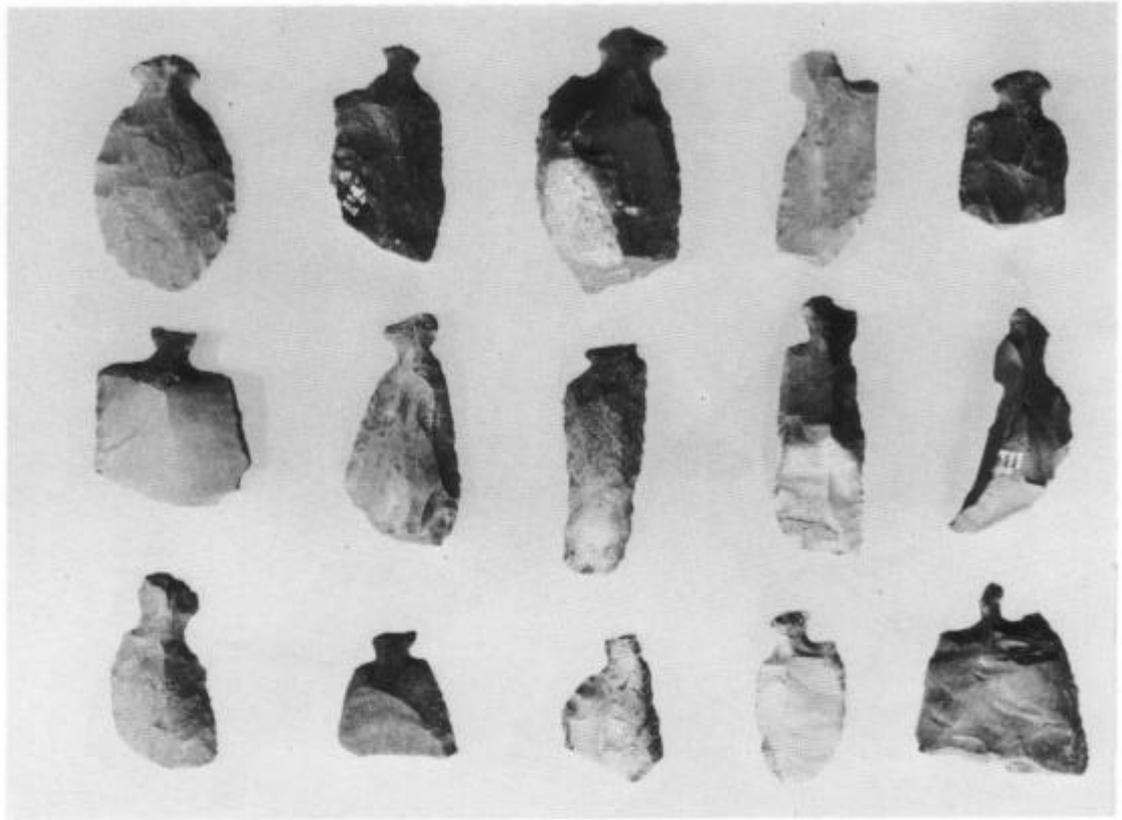
図版18 大野地遺跡出土遺物



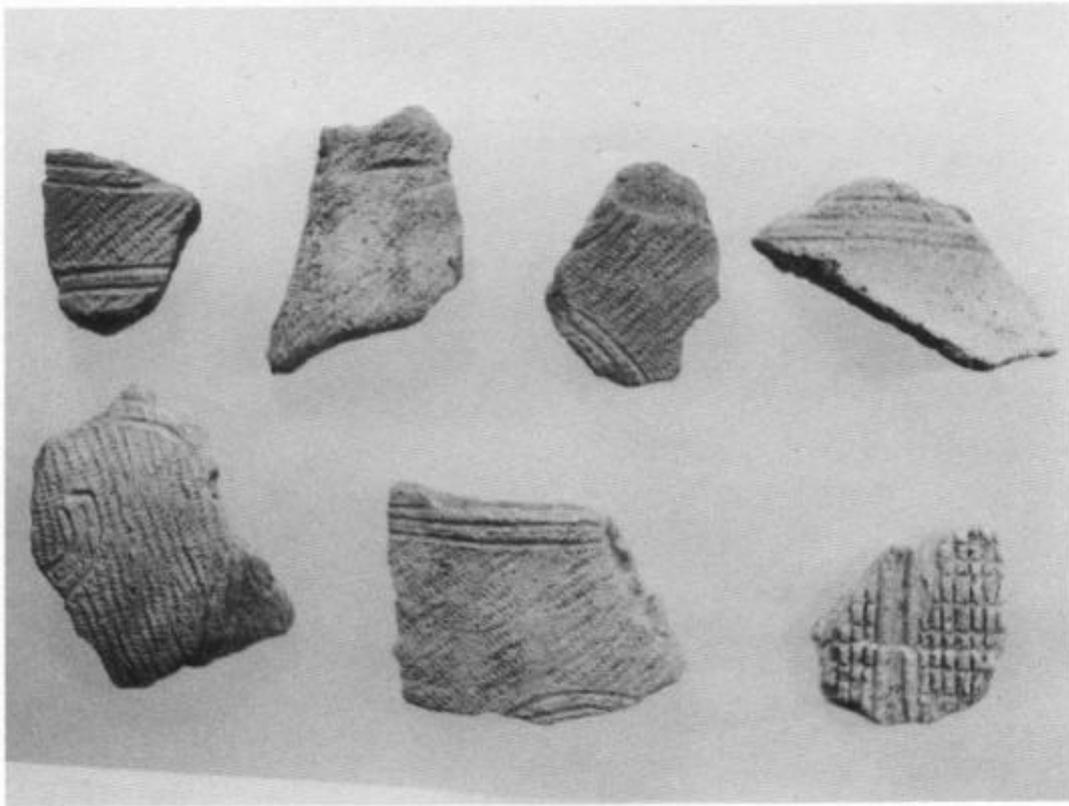
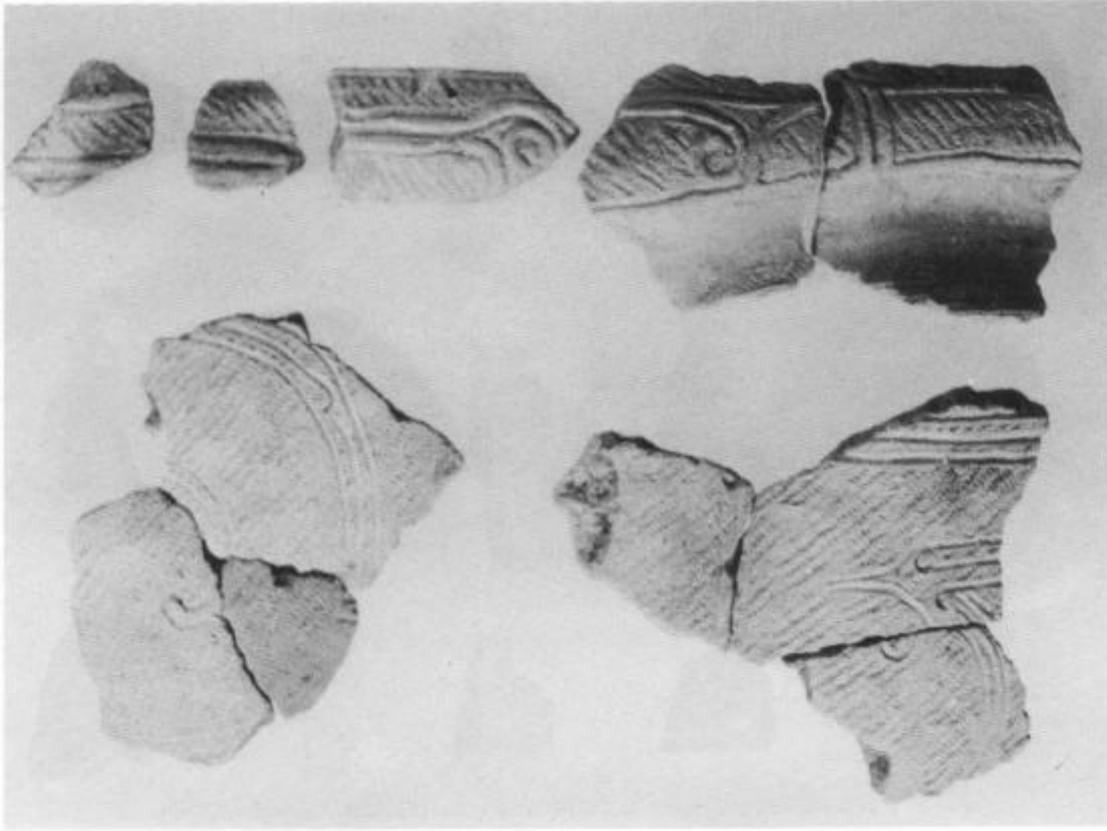
図版19 大野地遺跡出土遺物



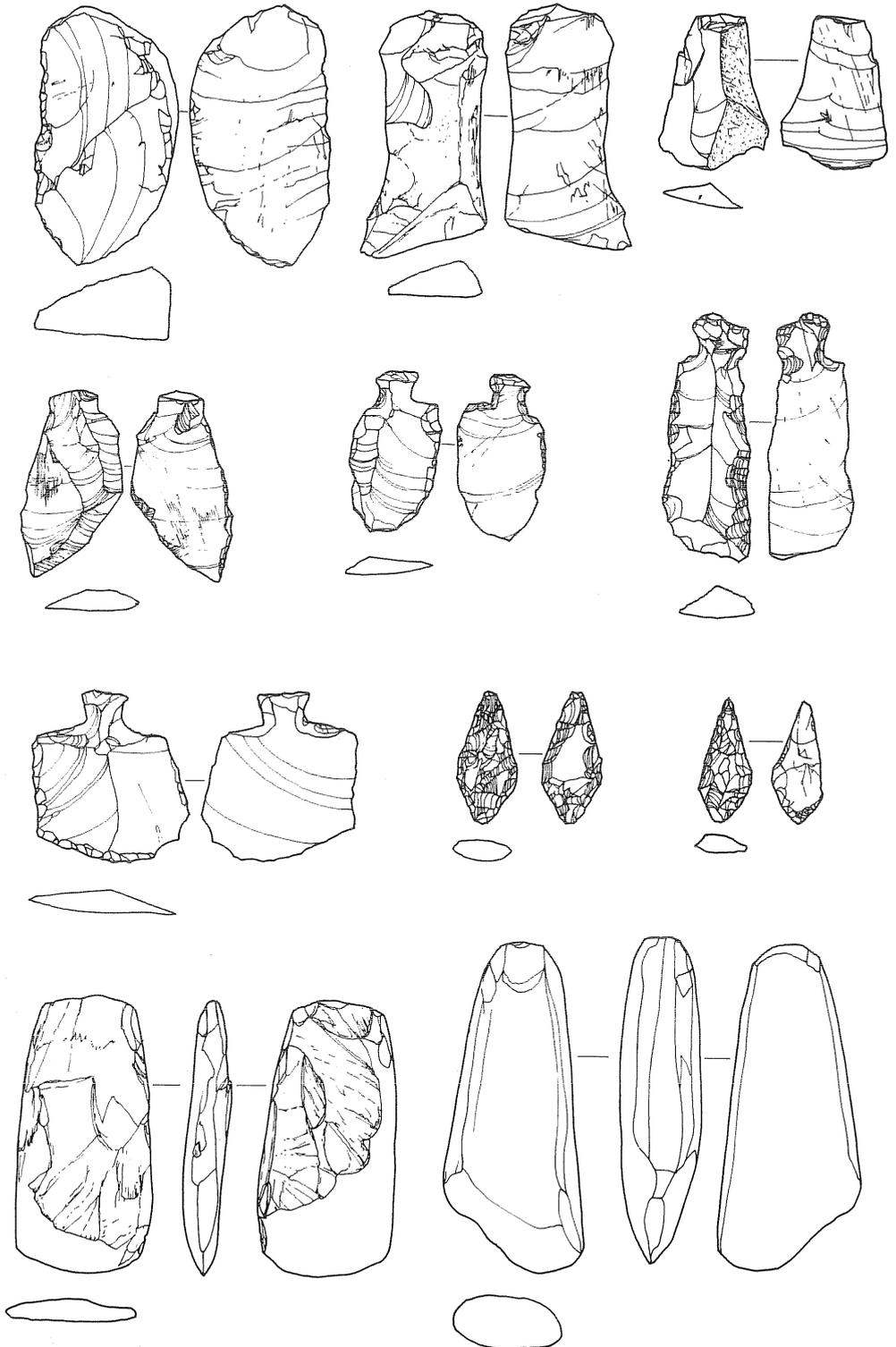
図版20 大野地遺跡出土遺物



図版21 大野地遺跡出土遺物



圖版22 大野地遺跡出土遺物



第20图 大野地遺跡出土遺物

第21図 大野地遺跡出土遺物

10cm

